

DIGITAL PIANO

J-3000

取扱説明書

YAMAHA



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさや切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもおお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。お子様のご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願い致します。

記号表示について

この機器の裏側に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または 巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	--

△ 記号は、危険、警告または注意を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、禁止行為を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、行為を強制したり指示したりすることを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

* お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

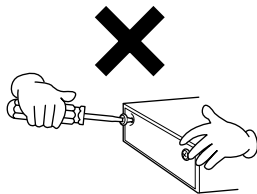
警告

この表示内容を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。感電や火災、または故障の原因になります。



電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおい煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



電源は必ず交流100Vを使用する。エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。感電やショートのおそれがあります。

注意

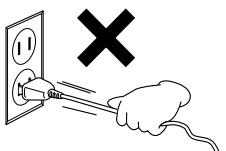
この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。



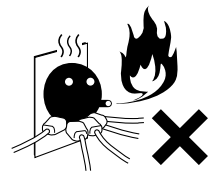
電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。

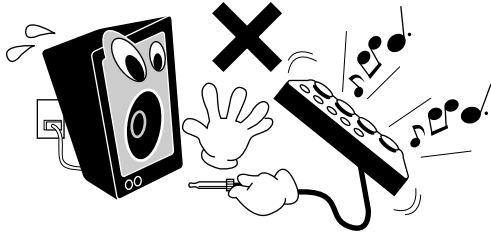


タコ足配線をしない。音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して発火したりすることがあります。

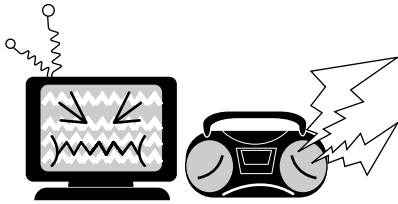


長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電、ショート、発火などの原因になります。

- ❗ 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。感電または機器の損傷のおそれがあります。



- ⊘ 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。本体のパネルが変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。
- ⊘ テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



- ⊘ 不安定な場所に置かない。機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ 本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。コードをいためたり、お客様が転倒したりするおそれがあります。
- ⊘ 本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。
- ⊘ 本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。
- ⚠ キーカバーで指などはさまないように注意する。また、キーカバーのすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。
- ⊘ キーカバーや鍵盤のすき間から金属や紙片などを落とさない。感電、ショート、発火や故障などの原因になります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

- ⊘ 本体を壁につけない。換気が十分でない、本体内部に熱がこもり、火災が発生するおそれがあります。
- ❗ 組み立てる前に、必ず本書または別紙の組み立て方の説明をよくお読みください。手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ⊘ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。聴覚障害の原因になります。

イスについて

- ⊘ イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスには二人以上ですわらない。イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。
- ⊘ イスにすわったままでイスの高さを調節しない。イスにすわったままイスの高さを調節すると、高低調節機構に無理な力が加わり、高低調節機構がこわれたりお客様がけがをしたりする原因になります。
- ❗ イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。


作成したデータの保存について

- ❗ 作成したデータは、電源を切ると消えます。また、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、ヤマハディスクオーケストラユニットDOU-10などの外部機器に保存することをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドフォンを使用するのもひとつの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

* この製品は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

このたびは、ヤマハ・デジタルピアノ NJ-3000をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。NJ-3000の機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくために、この「取扱説明書」をご活用ください。お読みになったあとは、いつでもご覧になれるところに大切に保管してくださいませよう、お願い申し上げます。

付属品(お確かめください)

保証書

取扱説明書(本書)

ご愛用者カード

高低自在イス

ご自分の演奏しやすい高さに調節してお使いいただけます。

ヘッドフォン

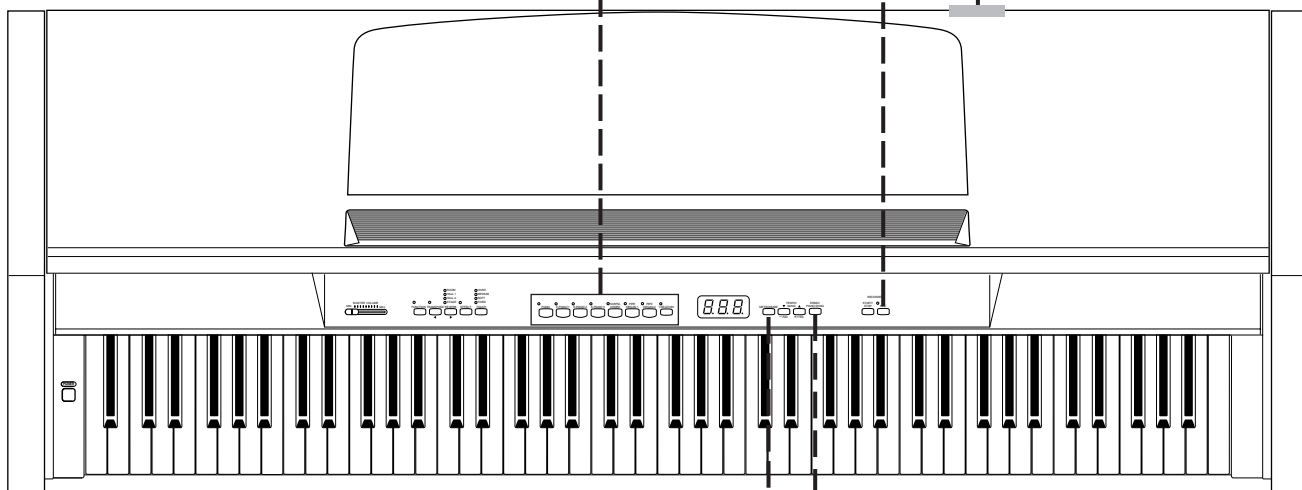
J-3000でこんなことができます

リアルなピアノ音色と、
リアルなタッチで、本格的なピアノらしい演奏が楽しめます。

ピアノ以外の音色でも演奏できます。
(P16 ~ P21、P40)

ご自分の演奏を録音/再生できます。
(P22 ~ P26)

リアパネルの端子を
使ってディスクオーケ
ストラ ユニット DOU-
10などをつなぐと、別
売のディスクソフトを
再生するなど多彩な
楽しみ方ができます。
(P34 ~ 37)



「音量調節ができる」
「ヘッドフォンで練習できる」
「軽量コンパクト」
「調律不要」
と、便利で経済的です。

本体にピアノ30曲の演奏データが
入っています。これらを鑑賞するだ
けでなく、便利な練習機能を使って
練習することもできます。
(P12 ~ P15、P41)

メトロノーム機能が、練習の
お役に立ちます。(P21)

準
備

取扱説明書(本書)はこんなふうにお役に立ちます

この本は、「準備」「本編」「付録」の3部構成になっています。

- **準備** / 最初にお読みください。
- **本編** / J-3000の機能を詳しく説明しています。
- **付録** / J-3000の資料を掲載しています。

表記上の決まり

【 】: パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、スライダー、ジャック(端子)といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームマスターボリュームのスライダーは、文章中で【MASTER VOLUME】と表記します。

・本書では、以下に示すような矢印を使って操作の結果と手順を区別しています。

⇨	の操作を行った結果、 (操作の結果を示します。)	の状態になることを示しています。
➡	の操作を行ったあと、 (操作の手順を示します。)	の操作を示しています。

本書で使用しているディスプレイのイラストは、説明のための1つの例にすぎません。お使いのJ-3000の状態によって、イラストと異なる表示が出る場合もありますのでご了承ください。

目次

準備

安全上のご注意	巻頭
付属品(お確かめください)	2
J-3000でこんなことができます	3
取扱説明書(本書)はこんなふうにご使用前の準備	4
	6

本編

各部の名前	8
操作の基本と共通機能	10
デモ曲/ピアノ曲を楽しむ	12
デモ曲を聞く	13
ピアノ30曲を聞く	14
ピアノ30曲の部分練習	15
音色を選んで弾く	16
音色を選ぶ	16
ペダルを使う	16
音に変化を付ける...【 <small>バリエーション</small> VARIATION】/【 <small>リバーブ</small> REVERB】/ 【 <small>エフェクト</small> EFFECT】	17
【 <small>タッチ</small> TOUCH】	18
【 <small>トランスポーズ</small> TRANPOSE】	19
「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)	20
【 <small>メトロノーム</small> METRONOME】を使う	21
演奏の録音(記録)	22
録音の手順(1つのトラックへの録音)	22
録音し直す場合	23
録音(記録)されるデータの種類	24
初期値の変更	24
録音上の注意	24
録音した曲の再生	25
再生の基本手順	25
再生に関する便利な機能	26

ファンクション	27
ファンクションでの基本操作	28
各ファンクション項目の説明	29
・ F1. 音程の微調整	29
・ F2. 音律(調律法)の選択	29
・ F3. デュアルの諸設定	30
・ F4. メトロノームの諸設定	31
・ F5. 左ペダル機能の設定	31
・ F6. MIDI機能の諸設定	31
他の機器と接続する端子	34
パーソナルコンピューターとの接続	36
故障かな?と思ったら	38

付録

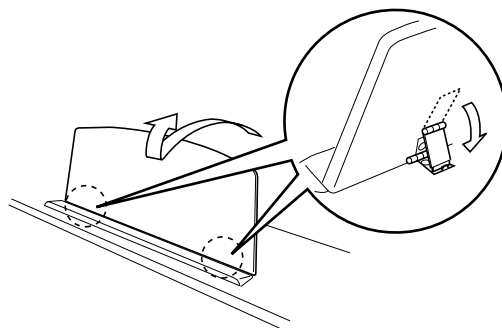
MIDIについて	39
音色のご紹介	40
デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表	41
基本設定一覧表	42
MIDIデータフォーマット	43
MIDIインプリメンテーションチャート	46
別売品のご紹介	47
仕様	48
J-3000の組み立て方	49
索引	51
メモ	52
保証とアフターサービス	53

ご使用前の準備

■ 譜面立てについて

立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、下向きに開きます。
3. 金具2つが固定される位置まで、譜面立てを戻します。



倒すとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て後ろ側の金具2つを、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

ノート 譜面立ては、中間位置で使用または放置しないでください。
また、譜面立てを倒すときは、途中で手を離さないでください。

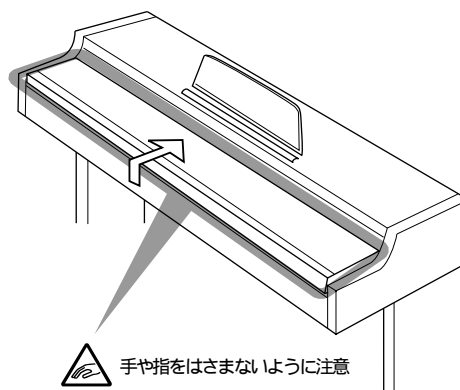
■ キーカバー(けんばんぶた 鍵盤蓋)について

開けるとき

1. 少しだけ持ち上げます。
2. 上へすべらせて開けます。

閉めるとき

1. 下へすべさせます。
2. 手を添えたまま静かに降ろします。



キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行い、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方(特にお子様など)が、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようにご注意ください。

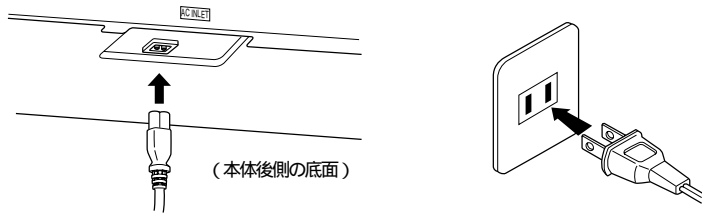


キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。
本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。

■ 電源を入れる

1. 電源コードを接続する

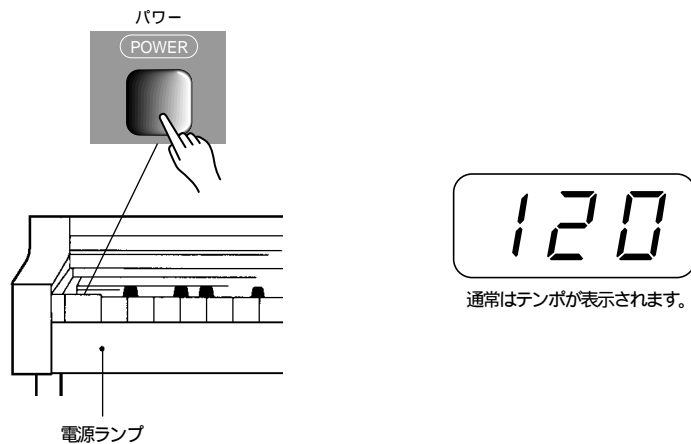
電源コードの両端のプラグを、本体とコンセント(家庭用AC100V)にそれぞれ差し込みます。



2. 電源を入れる

本体パネル左の【POWER】を押すと

⇒ 電源が入ります。本体パネル中央のディスプレイに表示が表れます。また、本体前面左の電源ランプも点灯します。

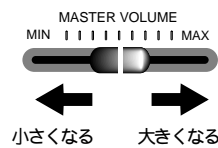


電源を切るときは、もう1度【POWER】を押します。

⇒ ディスプレイの表示が消え、本体前面左の電源ランプも消灯します。

■ 音量(ボリューム)調節

【MASTER VOLUME】を左右に動かして調節します。実際に鍵盤を弾いたりなど音を出しながら、音量を調節してください。



MASTER = 全体を制御する
VOLUME = 音量

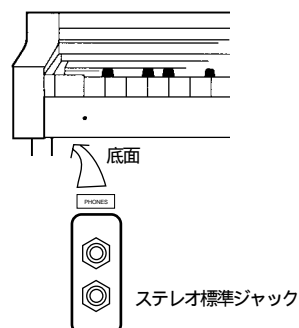
【MASTER VOLUME】で、
【PHONES】やAUX OUT の出力レベルも調節されます。

■ ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】端子に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとJ-3000本体のスピーカーからは音が出ません。

また、【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむことができます。



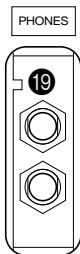
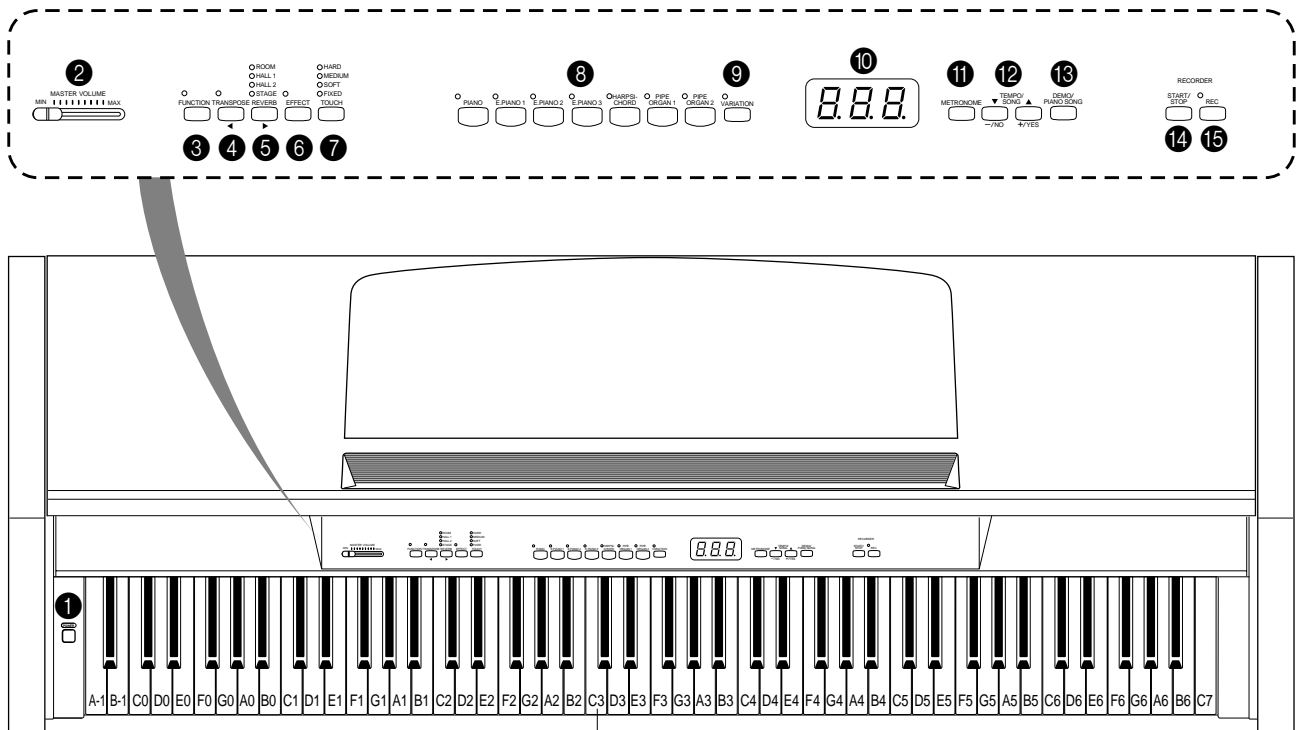
POWER = 電力、電気

電源ランプについて...

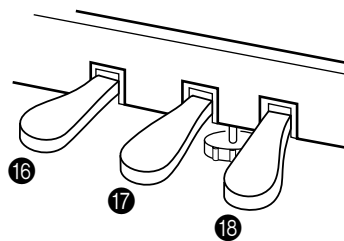
J-3000のご使用後、電源を切り忘れてキーカバー(鍵盤蓋)を閉めてしまった場合、電源ランプの点灯が、電源が入ったままであることを知らせてくれます。

各部の名前

トップパネル



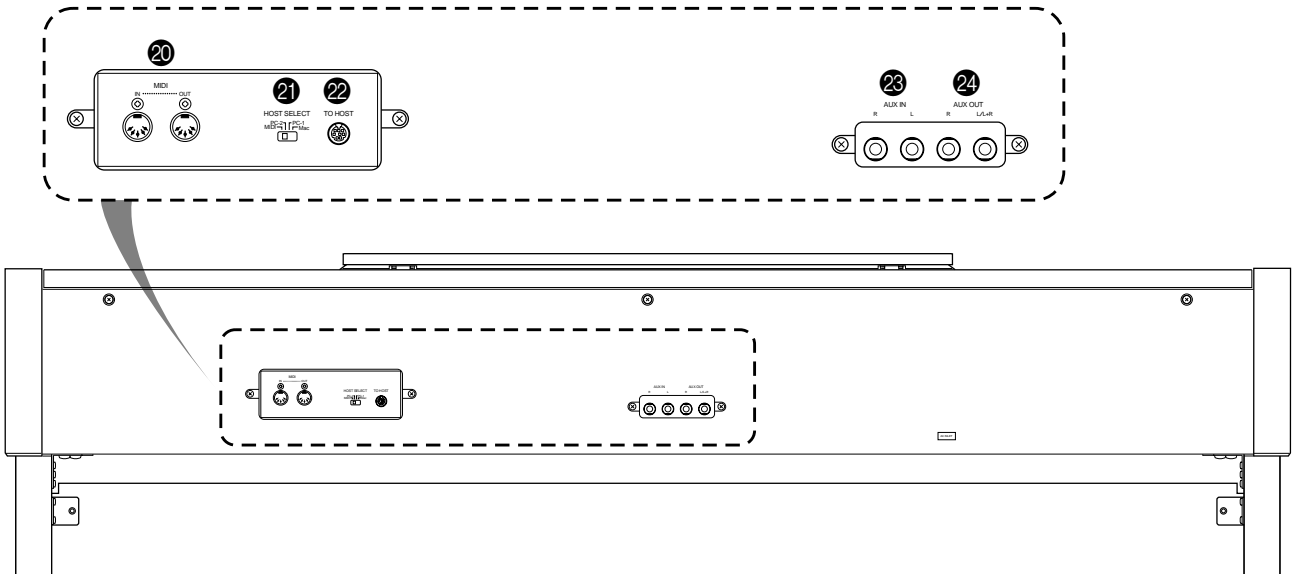
中央の「ド」



- パワー
- ①【POWER】…………… P7
マスター ボリューム
- ②【MASTER VOLUME】…………… P7
ファンクション
- ③【FUNCTION】…………… P27 ~ 33
トランスポーズ
- ④【TRANSPOSE】 / 【◀】…………… P19
リバーブ
- ⑤【REVERB】 / 【▶】…………… P17
エフェクト
- ⑥【EFFECT】…………… P18
タッチ
- ⑦【TOUCH】…………… P18
- ⑧音色ボタン…………… P16
バリエーション
- ⑨【VARIATION】…………… P17
- ⑩ディスプレイ…………… P10
メトロノーム
- ⑪【METRONOME】…………… P21

- テンポ/ソング
- ⑫ TEMPO/SONG【 X 】 /
ノー イェス
【 - /NO X + /YES】…………… P10, 28
- ⑬ DEMO/PIANO SONG…………… P12
デモ/ピアノソング
- ⑭【START/STOP】…………… P13 ~ 15, 23, 25
スタート/ストップ
- ⑮【REC】…………… P22
レコード
- ⑯左のペダル(ソフトペダル)…………… P17
- ⑰まん中のペダル(ソステヌートペダル) … P17
- ⑱右のペダル(ダンパーペダル)…………… P16
フオーンズ
- ⑲【PHONES】…………… P7

リアパネル



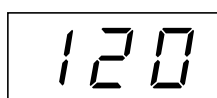
- ミディ イン アウト
- ②0 **MIDI【IN】OUT** P35, 39
- ホストセレクト
- ②1 **HOST SELECT【MIDI】**
- マッキントッシュ
- 【PC-2】PC-1【Mac】 P35, 36 ~ 37
- トゥーホスト
- ②2 **【TO HOST】** P35, 36 ~ 37
- ②3 **AUX IN【R】L** P35
- ②4 **AUX OUT【R】L/L+R** P35

操作の基本と共通機能

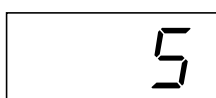
取扱説明書の「本編」をお読みいただく上で必要な「操作の基本と共通機能」を説明します。必ずお読みください。

■ 操作の基本

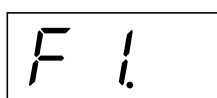
操作の基本はパネルのボタンを押すだけです。
操作の結果をパネル中央のディスプレイで確認しながら進めてください。
場面に応じて、たとえば下記のような表示になります。



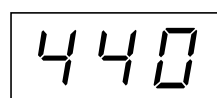
テンポ
(通常の表示)



ピアノ30曲の曲番号

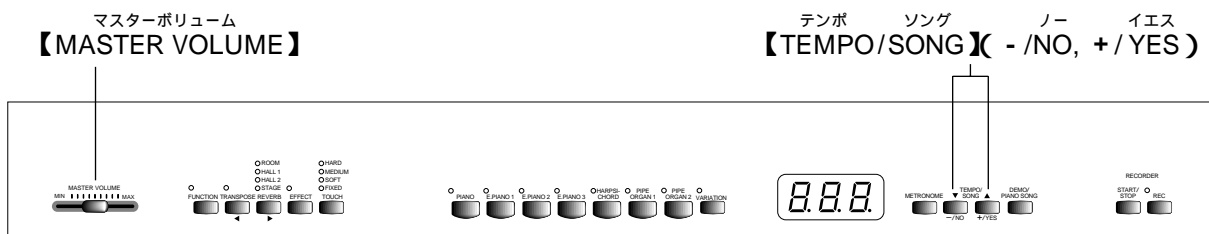


ファンクション項目番号



各種設定値

■ いろいろな場面でよく使うボタン



マスターボリューム 【MASTER VOLUME】

音量を調節します。

テンポ ソング ノー イエス TEMPO/SONG【 **▲** **▼** - /NO, + /YES)

この2つのボタン【 **▲** 】と【 **▼** 】は、場面に応じて下記のように異なる働きをします。

テンポ ・ TEMPOの調節

メロノームを使うときや、デモ曲/ピアノ曲、録音した曲の再生時のテンポを調節します。32 ~ 280 (1分間の拍数)の範囲で設定できます。ボタンを押し続けると値が連続して変わります。【 **▲** 】と【 **▼** 】を同時に押すと、標準テンポ(録音した曲に設定されているテンポ、または120)に戻ります。

ソング ・ SONGの選択

ピアノ30曲の曲を選びます。ボタンを押し続けると曲番号が連続して変わります。

ノー イエス ・ - /NO, + /YES機能

各種の値を設定、選択したり、操作の実行(YES)や中止(NO)を行います。多くの場合、ボタンを押し続けると値が連続して変わります。その場合、項目によって最大値、最小値でストップする場合と、循環して変わる場合があります。【 **▲** 】と【 **▼** 】を同時に押すと、基本設定(電源ON時の設定)に戻ります。

J-3000の機能の全体構成

大きく下記3つの機能があります。

演奏に関する機能(P16 ~ P21)

録音 / 再生に関する機能(P22 ~ P26)

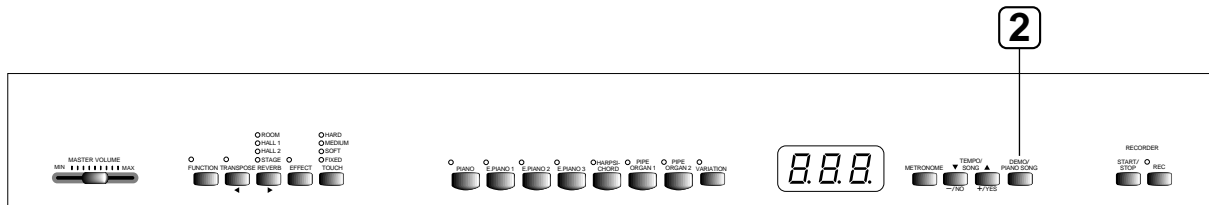
ファンクションの各機能(P27 ~ P33)

ファンクションとは...

J-3000をお使いいただく上での各種の設定を、ご自分の使いやすい状態に設定する機能です。電源ON時は基本設定になっていますが、特に独自の設定をしたいときに、ご利用ください。また、各種の応用的な操作がファンクションにまとめられています。(P27 ~ P33)

デモ曲/ピアノ曲を楽しむ

J-3000には、音色ごとに1曲ずつのデモ曲と、ピアノ模範演奏30曲が入っています。聞いてみましょう。ピアノ模範演奏30曲では、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)したりすることができます。



操作

1 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【POWER】^{パワー}を押します。

⇒ 電源が入ります。

音量はあとでデモ曲/ピアノ曲を実際に再生して聞きながら調節しますが、**とりあえず**【MASTER VOLUME】^{マスターボリューム}を中程まで上げておきます。

2 デモ曲/ピアノ曲モードに入る

パネル右ブロックの【DEMO/PIANO SONG】^{デモ ピアノソング}を押します。

⇒ 音色ボタンのランプが流れるように点滅します。

このあと、音色デモ曲の聞き方と、ピアノ模範演奏30曲(以降「ピアノ30曲」と呼びます)の聞き方/楽しみ方に分けて説明します。

デモ曲/ピアノ曲の曲名リスト...

音色ごとのデモ曲には、各音色の特長がよくわかる曲が選ばれています。ピアノ模範演奏30曲にはピアノのレッスンでよく使われる曲が集められています。曲名と、ピアノ30曲の参考楽譜のリストをP41に掲載しています。

デモ曲/ピアノ曲の再生データはMIDI送信されません。また、デモ曲/ピアノ曲モード中はMIDI受信を行いません。

録音モード(P22)のときと、曲の再生中(P25)は...
デモ曲/ピアノ曲モードには入れません。

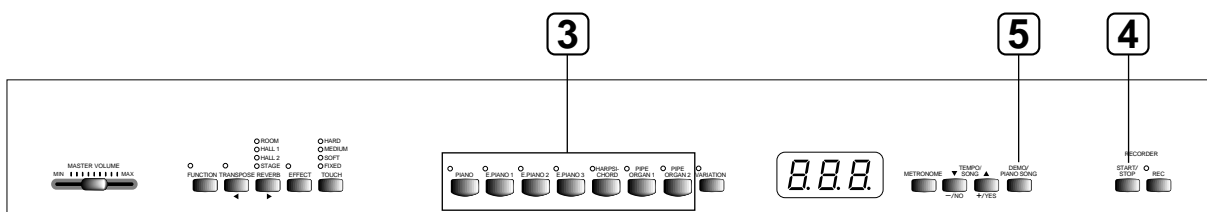
モードとは...

ある機能を実行できる状態を意味します。たとえば、ファンクションという機能を使う状態のことをファンクションモードと言います。また、「種類」とか「方式」という意味に使われる場合もあります。

ソング SONGとは...

クラビノーバでは、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲/ピアノ曲も演奏データですので【DEMO/PIANO SONG】と呼んでいます。

■ デモ曲を聞く



P12の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

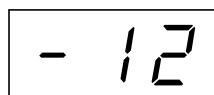
聞きたいデモ曲の音色ボタンを押します。
⇒ デモ曲の再生がスタートします。

音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

デモ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、再生中にTEMPO/SONG【 X 】を押してテンポを変更できます。
【 X 】を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99 ~ 0 ~ 99) で表示されます。元のテンポのときは「 」と表示されます

4 再生ストップ

再生をストップする場合は、【START/STOP】か再生中の音色ボタン(再生中は点滅しています)を押します。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

デモ/ピアノソング【DEMO/PIANO SONG】を押します。
⇒ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

連続再生...

デモ曲/ピアノ30曲すべてを順番に、または順不同に連続再生させることもできます。次項「ピアノ30曲を聞く」の操作3をご覧ください。

【VARIATION】を押すと...

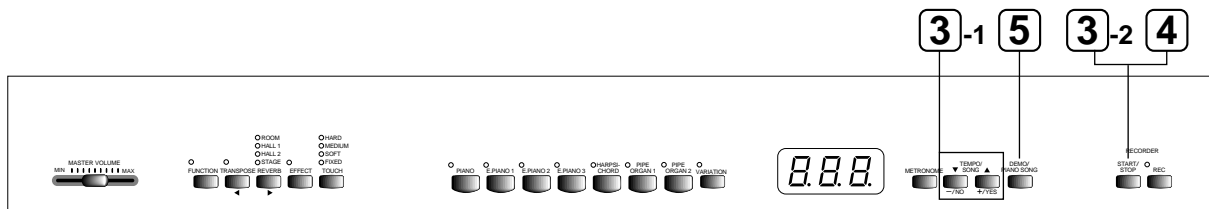
音色デモでなく、ピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ再生されます。

テンポのリセット(再設定)...

新しい曲を選ぶと(または連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

デモ曲では「部分練習(P15)はできません。

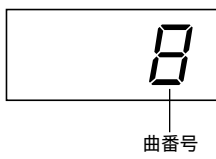
ピアノ30曲を聞く



P12の操作 1、2に続いて

3 選曲と再生スタート

3-1 ^{テンポ} ^{ソング} **TEMPO/SONG** [**X**] を押して聞くピアノ曲を選びます。



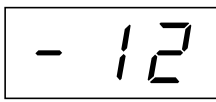
1、2、3 ~ 30: 聞く曲番号を指定します。
1曲だけ再生するモードです。

^{オール} **ALL** : デモ曲とピアノ30曲を順番に連続再生するモードです。
^{ランダム} **rnd** : デモ曲とピアノ30曲を順不同に連続再生するモードです。
^{バリエーション} また、**[VARIATION]** を押すとピアノ30曲の中からランダムに曲が選ばれ、再生がスタートします。(この場合は即スタートします。)

3-2 ^{スタート} ^{ストップ} **[START/STOP]** を押すと再生がスタートします。

音量の調節
^{マスターボリューム} ピアノ曲を聞きながら **[MASTER VOLUME]** で音量を調節します。

テンポの調節
ピアノ曲ごとに固有のテンポが設定されていますが、再生中に、^{テンポ} **TEMPO/SONG** [**X**] を押してテンポを変更できます。
[**X**] を同時に押すと元のテンポに戻ります。



元のテンポに対してのプラスマイナスの値 (-99 ~ 0 ~ 99) で表示されます。元のテンポのときは「 」と表示されます

4 再生ストップ

ピアノ曲の再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。再生途中に(または連続再生中に) ^{スタート} ^{ストップ} **[START/STOP]** を押します。

・ 続いて他の曲を再生する場合は、操作3に戻ります。

5 デモ曲/ピアノ曲モードを抜ける

^{デモ} ^{ピアノソング} **[DEMO/PIANO SONG]** を押します。
⇨ 音色ボタンのランプの流れるような点滅が止まります。

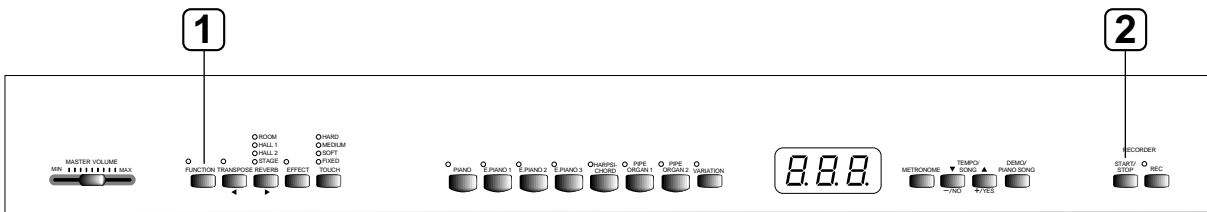
次に、ピアノ30曲の、曲中のフレーズを指定して繰り返し練習する方法(部分練習)を説明します。

ALLを選んでから音色ボタンを押すと...
その音色のデモ曲から順番に連続再生します。

テンポのリセット(再設定)...
新しい曲を選ぶと(または、連続再生で新しい曲がスタートすると)テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

ピアノ30曲の部分練習

曲中のフレーズを指定して繰り返し練習(部分練習)することができます。

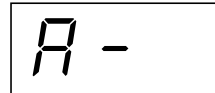


操作

1 フレーズの始まり(A点)と終わり(B点)の指定と練習スタート

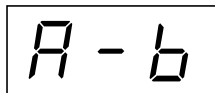
選曲し、再生をスタートします。聞きながら、始まり(A点)にしたいところで【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 始まり(A点)が設定され、ディスプレイに **A -** と表示されます。

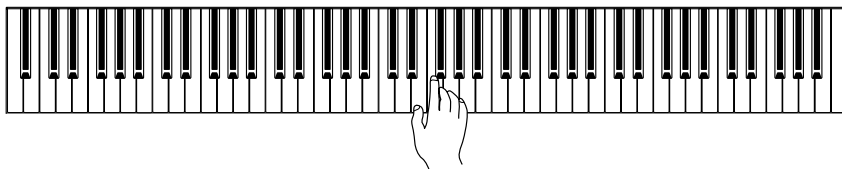


続いて、終わり(B点)にしたいところでもう一度【ファンクションFUNCTION】を押します。

⇒ 終わり(B点)が設定され、ディスプレイに **A - b** と表示されます。



同時に、A点に戻って繰り返し再生が自動的にスタートします。練習してください。



2 練習ストップ

A点、B点の設定を保ったまま一時練習をストップするときは【スタートSTART/ストップSTOP】を押します。(この場合、再度【スタートSTART/ストップSTOP】を押すと、再びA点~B点の繰り返し再生がスタートします。)

A点、B点の設定を解除するときは【ファンクションFUNCTION】を押します。

オール ランダム
ALLとrndのときはできません。

曲の先頭から繰り返しを始めた
いときは...
再生をスタートする前に
【ファンクションFUNCTION】を押して始まり(A
点)を設定します。

新しい曲を選ぶと...
A点、B点は自動的に解
除されます。

音色を選んで弾く

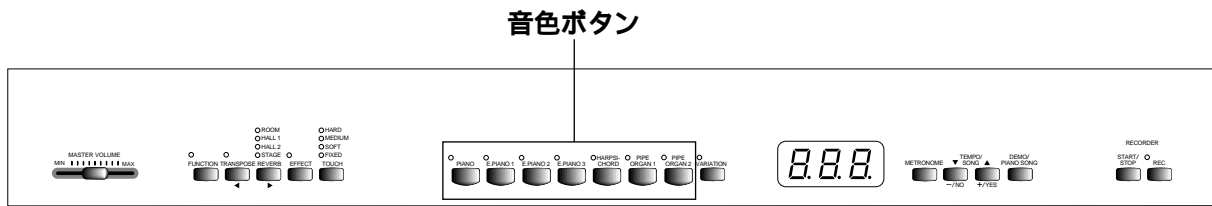
J-3000では7種類の音色をお楽しみいただけます。

各音色で【VARIATION】や【REVERB】【EFFECT】を使っていろいろに表情を変えることもできます。

また、2種類の音色を混ぜて弾くこと(デュアル)もできます。

【METRONOME】もお使いいただけます。

音色を選ぶ

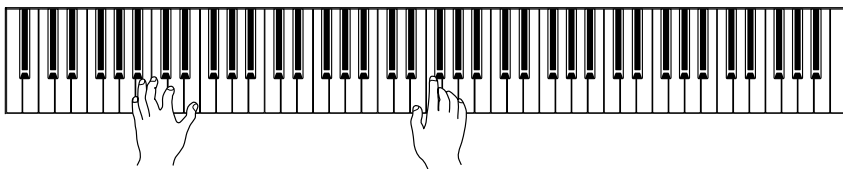


操作

使いたい音色ボタンを押します。

⇒ ランプが点灯します。

【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。

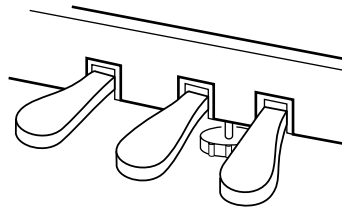


音色の特長を掴むには...

音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。(P16)

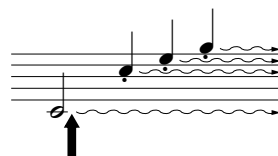
ペダルを使う

3本のペダルの使い方を説明します。



右のペダル(ダンパーペダル)

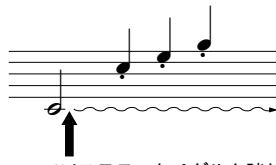
このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

【PIPE ORGAN 1】【PIPE ORGAN 2】の音色では...

ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

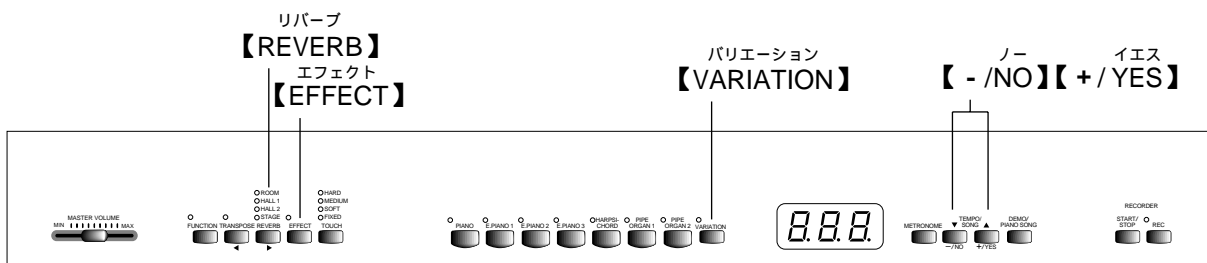
左のペダル(ソフトペダル)

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音の音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

左のペダルの機能切り替え...

「ファンクションF5 (P31)」で左のペダルをパネルの【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。

音に変化を付ける...【VARIATION】 【REVERB】【EFFECT】



【VARIATION】

違った表情の音にします。

操作

【VARIATION】を押すごとにON/OFFが切り替わります。

⇒ ランプが点灯したときがONです。

【REVERB】

音に残響を付けます。種類により、その場所で演奏しているような臨場感を味わえます。その深さ かけ具合 を変えることもできます。

OFF： リバーブはかかりません。

ROOM： 部屋の中にあるような響きになります。(=基本設定)

HALL 1： 小さいコンサートホールにあるような響きになります。

HALL 2： 大きいコンサートホールにあるような響きになります。

STAGE： ステージにあるような響きになります。

操作

【REVERB】を押すごとに種類が切り換わります。

⇒ 選ばれている種類のランプが点灯します。OFFの場合はどのランプも点灯しません。

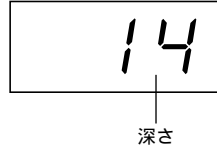
基本設定...OFF

リバーブの種類は【REVERB】を押して離れたときに切り換わります。【REVERB】を押したまま深さを変更したときは、【REVERB】を離しても種類は切り換わりません。

深さ かり具合) を変える

リバーブ
【REVERB】を押している間はディスプレイにリバーブの深さの値が表示されます。

リバーブ ノー イエス
【REVERB】を押したまま【 - /NO】または【 + /YES】を押すと、深さの値(0 ~ 20、基本設定=10)が変わります。



深さ

深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

リバーブの種類と深さは全音色に共通の設定となります。

エフェクト 【EFFECT】

音に広がり感を付けます。
その深さ かり具合) を変えることもできます。

操作

エフェクト オン/オフ
【EFFECT】を押すごとにON/OFFが切り替わります。
⇒ ONのときランプが点灯します。

深さ かり具合) を変える

オン エフェクト
エフェクトONのときは、【EFFECT】を押している間ディスプレイにエフェクトの深さの値が表示されます。(OFFのときは表示されません。)

エフェクト ノー イエス
【EFFECT】を押したまま【 - /NO】または【 + /YES】を押すと、深さの値(0 ~ 20)が変わります。



深さ

深さ0 : 効果なし ~
深さ20 : 深さ最大

基本設定...
音色ごとに標準の深さが設定されています。

タッチ

【TOUCH】

弾く強さに対する音の強弱の付きかた(タッチ感)を4種類から選びます。使う音色や演奏する曲、好みによって使い分けてください。

ハード
HARD : 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。ピアノシモからフォルティッシモまで表現豊かな演奏ができます。

ミディアム
MEDIUM : 標準的なタッチです。(= 基本設定)

ソフト
SOFT : 軽いタッチで大きい音を出すことができます。比較的音のつづがそろいやすいタッチです。

フィックス
FIXED : タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。その場合の音量を任意に設定することもできます。

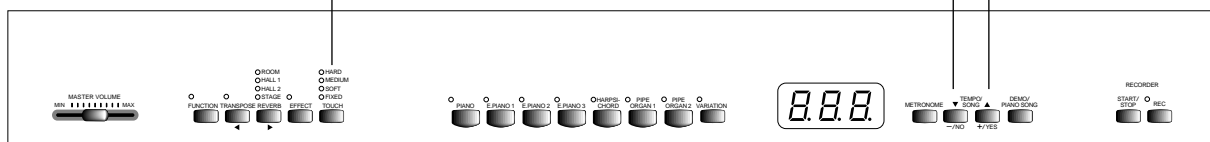
鍵盤の重さ自体は変わりません。

ハード
HARD = 「努力を要する、骨の折れる」
ミディアム
MEDIUM = 「中間の、中位の」
ソフト
SOFT = 「やさしい、楽な」
フィックス
FIXED = 「固定された」

タッチの種類は全音色に共通の設定となります。

タッチ 【TOUCH】

ノー イエス 【 - /NO】 【 + /YES】

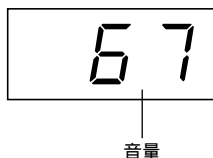


操作

タッチ
【TOUCH】を押すごとに種類が切り換わります。
☞ 選ばれている種類のランプが点灯します。

フィックス FIXEDの場合の音量を変える

フィックス
FIXEDを選んでいるとき、タッチ
【TOUCH】を押している間はディスプレイに
音量を示す値が表示されます。
タッチ
【TOUCH】を押したままノーマル
【- / NO】またはイエス
【+ / YES】を押すと、音量を
示す値(1~127、基本設定=64)が変わります。



1: 最小音量 ~
127: 最大音量

フィックス
FIXEDの場合の音量も全音色に
共通の設定となります。

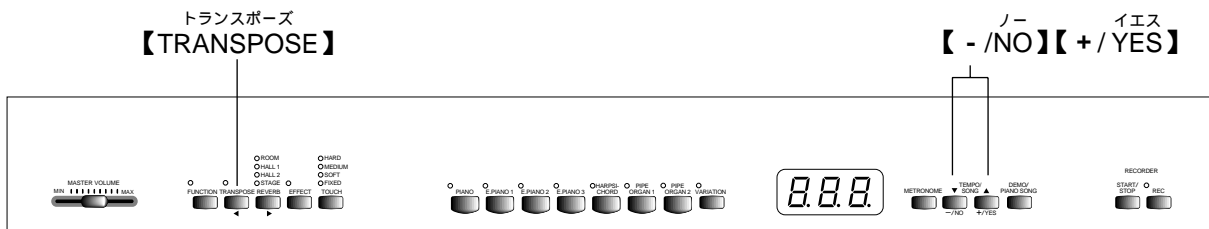
タッチの種類はタッチ
離したときに切り換わります。
タッチ
【TOUCH】を押したままフィックス
の場合の音量を変更したときは、
タッチ
【TOUCH】を離しても種類は切り換
わりません(フィックス
のままとなります)。

トランスポーズ

【TRANSPOSE】

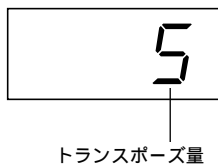
弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー(調)を合わせたり、演奏する曲を
移調したりします。半音単位でトランスポーズ量を設定できます。
たとえばトランスポーズ量を「5」に設定すると、「ド」を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、
「八長調」の弾きかたで「へ長調」の演奏になります。

トランスポーズ
TRANSPOSE: 移調する
移調: 曲全体の音程を上げたり下
げたりしてキー(調)を変えること。



操作

トランスポーズ
【TRANSPOSE】を押している間はディスプレイにトランスポーズ量
の半音単位の値が表示されます。
トランスポーズ
【TRANSPOSE】を押したままノーマル
【- / NO】またはイエス
【+ / YES】を押すと、
トランスポーズ量の半音単位の値(-12~0~12、基本設定=0)が変わ
ります。



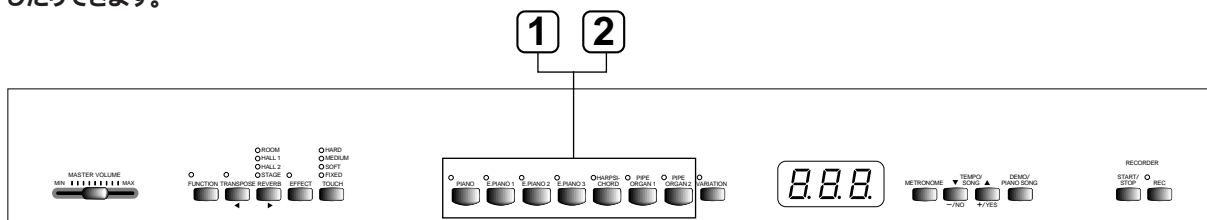
トランスポーズ量...
-12: -12半音(-1オクターブ)
0: 標準音程
12: 12半音(+1オクターブ)

トランスポーズをかけた場合の
発音域について...
トランスポーズによって、元の88鍵
の最高音(C7)より高くなる音は1
オクターブ下の音で、元の88鍵の
最低音(A-1)より低くなる音は1オ
クターブ上の音で発音します。

トランスポーズ
【TRANSPOSE】のランプは、トランスポーズ
を押している間点灯しますが、トランスポーズ量
が0以外に設定されたときは、操作後も引き続き、点灯し続けます。

「デュアル」で弾く(2つの音色を混ぜて弾く)

2種類の音色を混ぜて使います。2つの音色でメロディをデュエットさせたり、同系統の音色を混ぜて厚みのある音を作り出したりできます。



操作

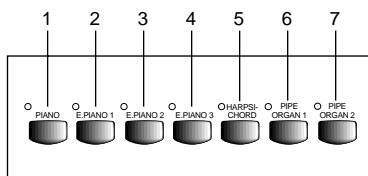
1 デュアルモードに入る

2つの音色ボタンを同時に押します。(=1つの音色ボタンを押したままもう1つの音色ボタンを押します。)

⇒ 2つの音色ボタンのランプが点灯します。

右記の優先順位で2つの音色のうち番号の若い方の音色が第1音色になります。

優先順位



デュアルでのいろいろな設定が「ファンクションF3 (P30)」でできます。(特に設定しなくても基本の設定が音色ごとに自動的に選ばれます。)

2 デュアルモードを抜ける

新たに1つの音色ボタンを押すとデュアルモードを抜けます。

デュアルのときの【VARIATION】

両方または片方の音色の【VARIATION】がONになっているときにランプが点灯します。両音色ともOFFの場合には消灯します。その後【VARIATION】を押すごとに両音色ともON、両音色ともOFFを切り替えることができます。(片方だけONにしたい場合は、デュアルモードに入る前に音色ごとに【VARIATION】のON/OFFを設定しておく必要があります。)

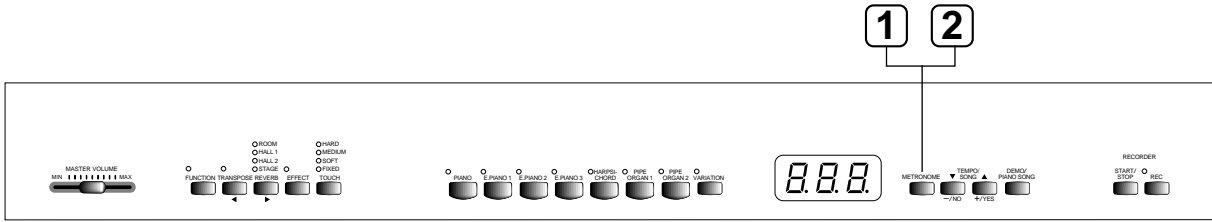
デュアルのときの【EFFECT】... 基本の設定(ON/OFFと深さ)が音色の組み合わせごとに自動的に選ばれます。

デュアルモードに入ったあとで【EFFECT】のON/OFFを切り換えた場合は、両音色共切り替わりません。

デュアルモードでのエフェクトの深さは「ファンクションF3 (P30)」で音色ごとに任意に設定することもできます。

【METRONOME】を使う

J-3000は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。お使いください。



操作

1 メトロノームを鳴らす

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが鳴り出します。

テンポの調節

テンポ ソング
TEMPO/SONG【**■**】を押すとテンポの値(32~280、基本設定=120)が変わります。

メトロノーム音量の調節

メトロノーム
【METRONOME】を押している間はディスプレイにメトロノーム音量の値が表示されます。
メトロノーム
【METRONOME】を押したまま【- / NO】または【+ / イェス】を押すと、値(1~20、基本設定=10)が変わります。

120.

メトロノームが鳴っている間、テンポに合わせて点滅します。

12

メトロノーム音量

メトロノームの音量は...
「ファンクションF4 (P31)」でも設定できます。また、ここで拍子も設定できます。

2 メトロノームを止める

メトロノーム
【METRONOME】を押します。
⇒ メトロノームが止まります。

演奏の録音(記録)

J-3000の録音機能を使ってご自分の演奏を録音する方法を説明します。

J-3000で録音できる様式と特長は下記のとおりです。

- ・ 録音後、音色やテンポ、効果などを変更できます。
- ・ 録音後、再生させながら演奏することができます。

「録音」と「記録」...

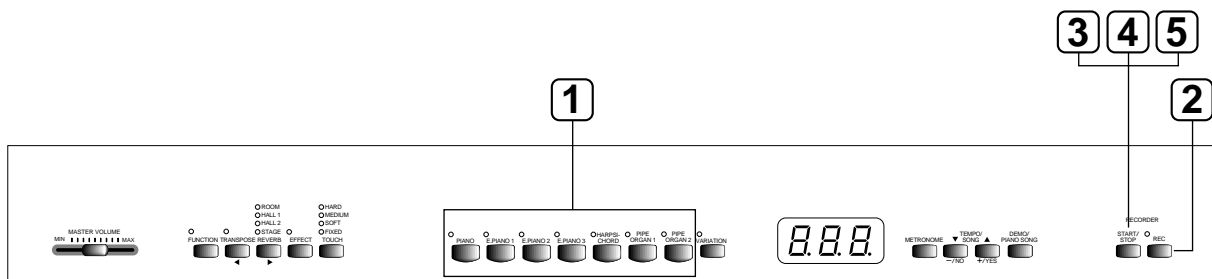
カセットテープに録音するのとJ-3000のメモリーに録音(記録)するのでは、録音されるデータの形式が異なります。

カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、J-3000のメモリーでは音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いた。音色はこれで、テンポはいくつで...」という情報が「記録」されます。再生の際は記録された情報とおり、「音源」部が鳴ります。J-3000のメモリーでは、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

メモリーとは...

録音データやいろいろな設定が記録されるJ-3000本体内部の記録装置のことです。

録音の手順



操作

ノート 録音済みの曲に再録音すると...

録音済みデータは消えてしまいますのでご注意ください。


1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

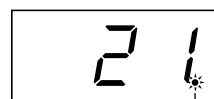
音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。必要に応じてそのほかの設定(テンポ、リバーブなど)も選んでください。

2 録音モードに入る

レコード【REC】を押します。

レコード ⇨ 【REC】のランプが赤く点灯します。

ディスプレイにJ-3000の記憶残容量の数値(KBの数値)が表示されます。また、右端の点「」が現在のテンポのタイミングで点滅します。



点滅

録音を中止する場合は、もう一度レコード【REC】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モードのときは... 録音モードに入ることはできません。

記憶残容量とは...

J-3000に録音できるスペースがあとどれだけ残っているかを示す値です。データの量を表す単位KB(キロバイト)で示されます。何も録音されていない場合で、21KB(およそ4,200音符号)となります。

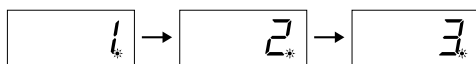
メトロノームを使う...

メトロノーム【METRONOME】を使って録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

3 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音が始まります。または、【START/STOP】^{スタート}を押すと録音が始まります。

⇒ ディスプレイに録音中の小節番号がリアルタイムで表示されます。



4 録音をストップする

【START/STOP】^{スタート}または【REC】^{レコード}を押します。

⇒ 【REC】^{レコード}のランプが消灯します。(録音モードが自動的に解除されます。)

5 録音した演奏を聞いてみる

【START/STOP】^{スタート}を押すと、今録音した演奏が再生されます。

もう一度【START/STOP】^{スタート}を押すと、再生が止まります。

左のペダルを使ってスタートする...

「ファンクションF5 (P31)で左のペダルをパネルの【START/STOP】と同じ機能に切り替えることができます。そうすると、左のペダルで録音をスタートすることができます。

録音中にメモリーの記憶残容量が少なくなってきた場合...

【REC】^{レコード}のランプが赤く点滅しだします。そして0になると画面に

「FUL」のメッセージが出て録音が自動的にストップします。(それまでの演奏データは記録されます。)

曲のデータの削除...

【START/STOP】^{スタート/ストップ}で録音をスタートし、何もせず【START/STOP】^{スタート/ストップ}で録音をストップすると、曲のデータがすべて削除されます。

録音し直す場合

録音した演奏がうまくいかなかった場合など、もう一度録音し直したい場合の手順を説明します。

1 必要に応じて、録音する音色(とそのほかの設定)を選び直す
先に録音したときと設定を変えたい場合に行ってください。

2 再び録音モードに入る
再び【REC】^{レコード}を押します。
⇒ 【REC】^{レコード}のランプが赤く点灯します。

これ以降、上記「3」以降の手順に従って録音します。

録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。以下にそれを示します。

- ・ ノートデータ(弾いた音)
初期値としては記録されません。
- ・ 音色
- ・ ダンパーペダルのON/OFFオン/オフ
- ・ ソステヌートペダルのON/OFFオン/オフ
初期値としては記録されません。
- ・ ソフトペダルのON/OFFオン/オフ
- ・ 【VARIATION】のON/OFFバリエーション オン/オフ
- ・ 【EFFECT】の深さエフェクト
- ・ デュアルの音色
- ・ 「ファンクションF3」でのデュアルの諸設定
録音途中での変更、初期値の変更(次項参照)はできません。
- ・ テンポリバーブ
- ・ 【REVERB】の種類と深さエフェクト オン/オフ
- ・ 【EFFECT】のON/OFF

初期値とは...

曲の先頭に記録されるデータです。

初期値の変更

録音を終えたあとでも、曲の初期値を変更することができます。変更できるデータは前記「録音(記録)されるデータの種類」のリストをご参照ください。

- 1 録音モードに入ります。
レコード
⇒【REC】のランプが赤く点灯します。
- 2 パネルを操作して初期値を変更します。
スタート ストップ
ここで鍵盤や【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。
- 3 【REC】を押して録音モードを抜けます。
レコード
スタート ストップ
ここで【START/STOP】を押さないようご注意ください。録音が始まってしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

たとえば録音したエレクトリックピアノ1【E. PIANO 1】の音色を【E. PIANO 2】に変更する場合...

操作1でのあと、操作2で【E. PIANO 2】を押す、操作3の【REC】を押して完了です。

録音上の注意

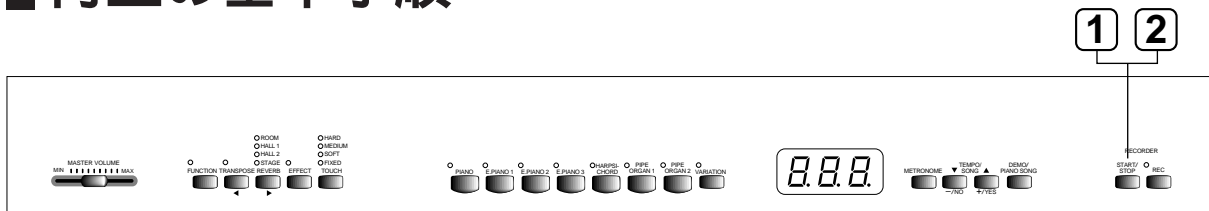
- ・ 録音した曲は、電源をOFFにするまで記憶されます。電源をOFFにすると消えてしまいますが、J-3000にディスクオーケストラユニット DOU-10などを接続して演奏データを送信し、曲をディスクに保存しておくこともできます。(「録音データのバルク送信」(P33))

録音した曲の再生

J-3000の録音機能(P22～24)を使って録音した曲を再生します。

曲の再生データは、MIDI送信されません。

再生の基本手順



操作

1 再生スタート

スタート ストップ
【START/STOP】を押すと再生がスタートします。
⇒ ディスプレイにはスタート後、再生中の小節番号が表示されます。



小節番号

- 再生しながら、演奏することもできます。この場合、再生音色と手弾き音色は連動しません。再生音色は録音された音色で鳴り、手弾き音色は選ばれているパネル音色で鳴ります。

音量の調節

マスターボリューム
【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

テンポの調節

テンポ/ソング
再生スタート前または再生中に、TEMPO/SONG【**X**】を押してテンポを変更できます。【**X**】を同時に押すと録音された曲に設定されているテンポに戻ります。

2 再生ストップ

曲が終わると、自動的に再生が終了します。再生の途中でストップする場合は、スタート ストップ【START/STOP】を押します。

デモ曲/ピアノ曲モード、ファンクションモードのときは...再生できません。

録音データがないときは【START/STOP】を押しても再生はスタートしません。

「連弾や2台のピアノのための曲の片パートを録音し、それを再生しながら自分でもう1つのパートを弾く」という方法で、1人でアンサンブルを楽しむこともできます。

再生といっしょにメトロノームを使うこともできます。この場合、再生ストップすると、メトロノームも同時に止まります。

■ 再生に関する便利な機能

左のペダルでスタート/ストップする

左のペダルでスタート/ストップすることができます。

「ファンクションF5 (P31)で左のペダルの機能をスタート/ストップ(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えます。

自分が先に弾き出して、途中から再生パートをスタートさせたいときに便利です。

ファンクション

J-3000をお使いいただく上での各種の設定を、基本設定(電源^{オン}時の設定)以外のご自分の使いやすい設定に変更する機能です。

そのほかに、各種の便利な機能や応用的な機能が、ファンクションの中にまとめられています。

まず、ファンクションの各項目を概観してください。

ファンクションには大項目が6個あります(F1~F6)

大項目の中には小項目をいくつか持つものもあります。

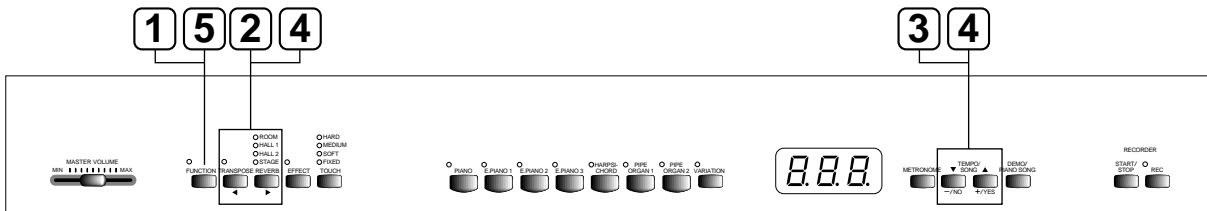
ファンクション一覧表

大項目		小項目		ページ
F1.	音程の微調整	-	-	29
F2.	音律(調律法)の選択	-	-	29
F3.y	デュアルの諸設定	F3.1	2音色の音量バランスの設定	30
		F3.2	2音色の音程を微妙にずらす設定	30
		F3.3	第1音色のオクターブシフトの設定	30
		F3.4	第2音色のオクターブシフトの設定	30
		F3.5	第1音色のエフェクトの深さの設定	30
		F3.6	第2音色のエフェクトの深さの設定	30
		F3.7	基本設定に戻す操作	31
F4.y	メトロノームの諸設定	F4.1	拍子の設定	31
		F4.2	メトロノーム音量の設定	31
F5.	左ペダル機能の設定	-	-	31
F6.y	MIDI機能の諸設定	F6.1	MIDI送信チャンネルの設定	31
		F6.2	MIDI受信チャンネルの設定	31
		F6.3	ローカルコントロール ^{オン/オフ} の設定	32
		F6.4	プログラムチェンジ送受信 ^{オン/オフ} の設定	32
		F6.5	コントロールチェンジ送受信 ^{オン/オフ} の設定	32
		F6.6	MIDI送信データにトランスポーズをかける設定	32
		F6.7	セットアップデータのMIDI送信	32
		F6.8	録音データのバルク送信	33

ファンクションでの基本操作

ファンクションの各項目は以下の手順で操作します。

(ファンクションの各項目の説明で、操作がわからなくなった場合はここに戻ってご覧ください。)



操作

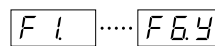
1 ファンクションモードに入る

ファンクション
【FUNCTION】を押します。

⇒ ランプが点灯し、ファンクションモードのディスプレイ **F**** になります。

2 大項目を選ぶ

【◀▶】ボタン下の印刷)でファンクションの大項目
(F1~F6)を選びます。



3 ディスプレイ右横の【-/NO】【+/YES】ボタン下の印刷)で...

小項目がない場合: 直接設定の操作に入ります。

小項目がある場合: 【+/YES】で小項目を選択する操作に進みます。

4 これ以降の2種類のボタンを使って操作します。

【◀▶】

大項目または小項目の選択に使います。

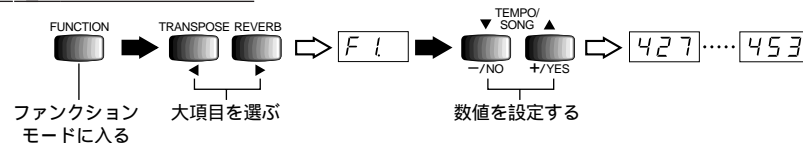
【-/NO】【+/YES】(ディスプレイ右横のボタン)

大項目または小項目を選んだあと、ON/OFFの設定、種類の設定、数値の設定をします。

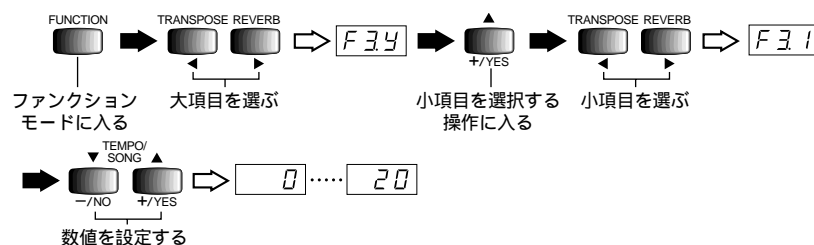
【-/NO】【+/YES】を同時に押すと基本設定(=電源ON時の設定)に戻ります。

ノート 項目を選んだあと、最初に【-/NO】【+/YES】を押したときは、現在の設定状態(設定値)が表示されます。

操作例1(F1.「音程の微調整」)



操作例2(F3.1「デュアルの音色の音量バランスの設定」)



5 操作が完了したら...

ファンクション
【FUNCTION】を押してファンクションモードから抜けます。

⇒ ランプが消灯し、ディスプレイがテンゴ表示に戻ります。

デモ曲/ピアノ曲モードのときと、曲の再生中、録音中は...
ファンクションモードに入ることはできません。

ファンクションモードのときは...
曲の再生はできません。

各ファンクション項目の説明

F1. 音程の微調整

楽器全体の音程を微調整する機能です。合奏のときなど、ほかの楽器と音程を正確に合わせたいときに使用します。

1) ファンクションモードに入り、大項目 **F1** を選びます。

2) 【- /NO】^ノ【+ /YES】^{イエス}で、A3の鍵盤の音程を^{ヘルツ}Hzの数値で設定します(約0.2Hz単位)。

⇒ **427** ... **440** ... **453**

小数点以下の数値は、下記のような点「**.**」で示されず。

表示	値
440	440.0
440.	440.2
440.	440.4
440.	440.6
440.	440.8

設定範囲: 427.0 ~ 453.0(Hz)

基本設定: 440.0(Hz)

・ Hzとは...

音の高さを示す単位です。(音の高さは音波の振動数によって決まります。1秒間に何回振動するかという数値の単位がHzです。)

ノート 別の設定方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

音程を上げる(約0.2Hz単位)...

A-1とB-1(左端の白鍵2つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

音程を下げる(約0.2Hz単位)...

A-1とA#-1(左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

基本設定に戻す...

A-1とA#-1とB-1(左端の白鍵2つと黒鍵1つ)を同時に押したまま、C3~B3の1つの鍵盤を押す

ノート 約1Hz単位で設定する方法もあります...(ファンクションモードでないときに操作できます。)

約1Hz単位で音程を上下させる...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【- /NO】^ノ【+ /YES】^{イエス}を押す

基本設定に戻す...

「A-1とB-1」または「A-1とA#-1」(左端の白鍵2つ、または左端の白鍵と黒鍵)を同時に押したまま、【- /NO】^ノ【+ /YES】^{イエス}を同時に押す

(上記操作中、ディスプレイが^{ヘルツ}Hz表示(**427** ... **453**)に切り換わります。操作後元のディスプレイに戻ります。)

F2. 音律(調律法)の選択

音律(調律法)を選ぶ機能です。

現在もっとも一般的なピアノの調律法「平均律」が完成するまでには、時代と共に様々な音律が考えられ、またそれによる音楽が誕生しました。

当時の調律法で演奏することでその曲が誕生した時の響きを味わうことができます。

次の7種類の音律(調律法)が用意されています。

平均律 (Equal Temperament)^{イコールテンペラメント}

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーなピアノの調律法です。

純正律(長調) (Pure Temperament) (Major)^{ビュアテンペラメント} ^{メジャー}

純正律(短調) (Pure Temperament) (minor)^{ビュアテンペラメント} ^{マイナー}

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどで見られます。

ピタゴラス音律 (Pythagorean Temperament)^{ピタゴリアンテンペラメント}

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

中全音律 (Meantone Temperament)^{ミントーンテンペラメント}

ピタゴラス音律の3度の音程のうなりをなくすために改良された音律です。

十六世紀後半から十八世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

ヴェルクマイスター音律 (Werckmeister)^{ヴェルクマイスター}

キルンベルガー音律 (Kirnberger)^{キルンベルガー}

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、両者はその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。

バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の音楽をハープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにはしばしば用いられます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 **F2** を選びます。

2 【- /NO】^ノ【+ /YES】^{イエス}で音律(調律法)の種類を選びます。

⇒ **1** **F2** ...

- 選択範囲: 1..... 平均律
2..... 純正律(長調)
3..... 純正律(短調)
4..... ピタゴラス音律
5..... 中全音律
6..... ヴェルクマイスター音律
7..... キルンベルガー音律

基本設定: 1..... 平均律

3 平均律以外のときは、基音(演奏する曲の調の主音)を、鍵盤を押して設定する必要があります。設定した基音の調に対して各音律の効果が得られます。

⇒ **F2** **Fd** ...

設定範囲: C, D^b, D, E, E^b, F, F[#], G, A^b, A, B^b, B

基本設定: C

・ 基音表示の例

F# **G** **A^b**
(F[#]) (G) (A^b)

シャープのとき
上に“-”

フラットのとき
下に“-”

ノ 選択した音律は、この **F2** を抜けてから有効になります。

F3. デュアルの諸設定

デュアルモードでの各種設定をします。

1 デュアルモードで音色を選んでからファンクションモードに入り、大項目 **F3** を選びます。

2 【+ /YES】^{イエス}を押して確定し、【< X >】^{イエス}で以下の小項目を選び、【- /NO】^{イエス}【+ /YES】^{イエス}で設定します。

ノ デュアルモードでないときには...

①での表示が **F3-** になり、【+ /YES】^{イエス}を押しても反応しません。

ファンクションモードに入ったあとで、デュアルモードに入ることもできます。

小項目

F31 2音色の音量バランスの設定

設定範囲: 0~20(20に近づくほど第1音色の音量が大きくなる、10で同音量)

基本設定: 音色の組み合わせごと

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く混ぜるなど、2音色の音量バランスを工夫してみてください。

F32 2音色の音程を微妙にずらす設定

設定範囲: -10~0~+10(+方向で第1音色の音程が高くなる。-方向で第2音色の音程が高くなる。)

基本設定: 音色の組み合わせごと

2音色の音程を微妙にずらすと音に厚みが出ます。

F33 第1音色のオクターブシフトの設定

F34 第2音色のオクターブシフトの設定

設定範囲: -1, 0, +1

基本設定: 音色の組み合わせごと

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。第1音色と第2音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

F35 第1音色のエフェクトの深さの設定

F36 第2音色のエフェクトの深さの設定

設定範囲: 0~20

基本設定: 音色の組み合わせごと

エフェクトの深さを第1音色と第2音色別々に設定します。

エフェクトがOFFのときは設定できません。(ファンクションモードに入ってからではエフェクトの種類を選ぶことができませんので、ファンクションモードを一度抜けてからエフェクトの種類を選んでください。)

・ 「第1音色」「第2音色」については、P20をご覧ください。

F37 基本設定に戻す操作

【+/YES】を押すと上記すべての設定が、その音色の組み合わせが持つ基本設定に戻ります。

ノート ショートカット操作...

デュアルの2つの音色ボタンを押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F31]...[F37]に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の場合（【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯）が必要です。

F4. メトロノームの諸設定

メトロノームの拍子と音量を設定します。

1 ファンクションモードに入り、大項目 [F44] を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【◀▶】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

小項目

F41 拍子の設定

設定範囲: (無拍子) 2(拍子) 3(拍子) 4(拍子) 5(拍子) 6(拍子)
基本設定: (無拍子)

F42 メトロノーム音量の設定

設定範囲: 1~20
基本設定: 10

ノート メトロノーム音量の別の設定方法もあります...

(ファンクションモードでないときに操作できます。)
【METRONOME】を押したまま【-/NO】【+/YES】を押します。

ノート ショートカット操作...

【METRONOME】を押したまま【FUNCTION】を押すと直接ファンクションモードの[F41]または[F42]に入ることができます。
この場合でも、ファンクションモードを抜けるには、通常の場合（【FUNCTION】を押す⇨ランプ消灯）が必要です。

F5. 左ペダル機能の設定

左のペダルの機能を設定します。基本設定ではソフトペダルとして機能しますが、ここで、スタート/ストップ機能(パネルの【START/STOP】と同じ機能)に切り替えることができます。

1 ファンクションモードに入り、大項目 [F5] を選びます。

2 【-/NO】【+/YES】で設定します。

選択範囲: 1(ソフトペダル) 2(スタート/ストップ)
基本設定: 1(ソフトペダル)

F6. MIDI機能の諸設定

MIDIに関する各種設定 / 操作をします。
MIDIについての基礎的な解説が「MIDIについて」(P39)にあります。ご参照ください。

1 ファンクションモードに入り、大項目 [F64] を選びます。

2 【+/YES】を押して確定し、【◀▶】で以下の小項目を選び、【-/NO】【+/YES】で設定します。

小項目

F61 MIDI送信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでJ-3000からMIDIデータを送信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: 1~16, OFF(送信しない)
基本設定: 1

・デュアルのときの第2音色は...

2チャンネルに固定です。ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。

・デモ曲/ピアノ30曲の再生データ、録音した曲の再生データはMIDI送信されません。

F62 MIDI受信チャンネルの設定

MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1~16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでJ-3000がMIDIデータを受信するときのチャンネルを設定します。

選択範囲: オール
ALL、1&2、1~16
基本設定: オール
ALL

オール
• ALLの場合は...

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時にチャンネルごとに独立して受信します。

この状態で、シーケンサーなどから送信される複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、J-3000で受信して再生させることができます。

• 「1 & 2」の場合は...

シーケンサーなどの外部MIDI機器から1、2チャンネルのデータだけ受信し、J-3000本体で再生することができます。

• J-3000では、J-3000本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り換え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

• デモ曲/ピアノ曲モード中は、MIDI受信を行いません。

F 5.3 ローカルコントロールON/OFFの設定

通常、J-3000の鍵盤を弾くと本体内部の「音源部」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールON」と呼ばれます。「ローカルコントロールをOFF」にすると、「鍵盤」が音源が切り離され、鍵盤を弾いてもJ-3000からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏情報はMIDI送信されますので、J-3000では音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをOFFにします。

選択範囲: オン/オフ
On/OFF
基本設定: オン
On

F 5.4 プログラムチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り換える情報をプログラムチェンジと言います。

たとえばJ-3000からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り換えることができます。(J-3000のパネル上で音色を切り換えたときに、切り換えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをJ-3000が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切りかわります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切りかわりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切換を連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切換を連動させたくない場合)があります。音色切換を連動させたい場合はOnに、連動させたくない場合は、OFFにします。

• J-3000のプログラムチェンジナンバーは...

XG音色配列に準拠しています。各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDIデータフォーマット」のP43をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
On/OFF
基本設定: オン
On

F 5.5 コントロールチェンジ送受信ON/OFFの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器にダンパーペダルの操作やエフェクト、ボリュームなどの演奏表現を伝える情報をコントロールチェンジと言います。

たとえばJ-3000からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(J-3000でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをJ-3000が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません。)

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はOnに、できないほうが便利な場合は、OFFにします。

• J-3000がコントロールチェンジとして扱える情報...
「MIDIデータフォーマット」のP43をご覧ください。

選択範囲: オン/オフ
On/OFF
基本設定: オン
On

F 5.6 MIDI送信データにトランスポーズをかける設定

MIDI送信データにトランスポーズをかける設定です。(本体のトランスポーズの設定とは連動しません。)

選択範囲: -12 ~ 0 ~ 12(半音単位)
基本設定: 0

F 5.7 セットアップデータのMIDI送信

J-3000のパネル設定状態のセットアップデータをMIDI接続したディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサーなどに送信します。

DOU-10や外部シーケンサーに演奏データを録音する際、演奏データの頭に、録音データを再生しながら自分で演奏するためのセットアップデータを送信して記録しておく、再生しながらの演奏の際、便利です。

• セットアップデータとは...
J-3000のパネル設定状態一式のデータです。

操作

送信するパネル設定を作ります。

▶ シーケンサーなどとMIDI接続し、シーケンサー側のセットアップデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って **F 5.7** を選びます。

▶ 【+/YES】を押すと送信が実行されます。

⇨ **End**

・送信される「セットアップデータ」の内容...

「MIDIデータフォーマット」のP44(パネルデータ詳細)に掲載されている内容が送信されます。

・送信したデータの受信方法...

データを送信した機器とJ-3000をMIDI接続します。

▶ データを送信した機器側で送信操作をします。

□> 自動的にJ-3000がそのデータを受信し、パネルの設定状態に反映されます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。たとえばJ-3000から送信したセットアップデータは、J-3000で受信することができますが、他の機種で受信することはできません。)

- ・セットアップデータMIDI送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

F6.B 録音データのバルク送信

ディスクオーケストラユニットDOU-10やシーケンサーなどをJ-3000に接続し、J-3000で録音したデータをMIDIのバルクデータとして送信し、ディスクに保存しておくことができます。保存しておいた録音データを再生する場合は、送信した機器からJ-3000本体にバルクデータを送り戻した上で、通常の再生操作で再生します。

・バルクデータとは...

MIDIで、データの種類を表す用語で「データのかたまり」といった意味です。

操作

J-3000で演奏を録音します。

▶ ディスクオーケストラユニットDOU-10などとMIDI接続し、DOU-10などの側のバルクデータ受信準備を整えます。

▶ ファンクションモードに入って **F6.B** を選びます。

▶ **[+ /YES]** を押すと送信が実行されます。

□> **End**

・録音モードのときと再生中は...

バルクデータ送信はできません。

・バルクデータ送信中は...

手弾き音のデータ及びパネル情報はMIDI送信されません。また、MIDI受信を行いません。

・送信したデータの受信(送り戻し)方法...

データを送信した機器とJ-3000をMIDI接続します。

▶ データを送信した機器側で送信操作をします。

□> 自動的にJ-3000がそのデータを受信し、本体のメモリーにデータが入ります。

このあと、通常の再生操作で再生できます。

(送信した機種と同じ機種でだけ受信することができます。たとえばJ-3000から送信したバルクデータは、J-3000で受信することができますが、他の機種で受信することはできません。)

・ファンクションモードのとき、および録音モードのときと再生中は...

バルクデータ受信はできません。

- ・バルクデータ送受信の操作については、接続する外部機器の取扱説明書もご覧ください。

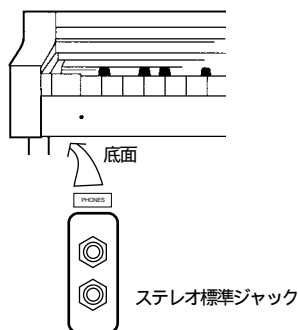
他の機器と接続する端子

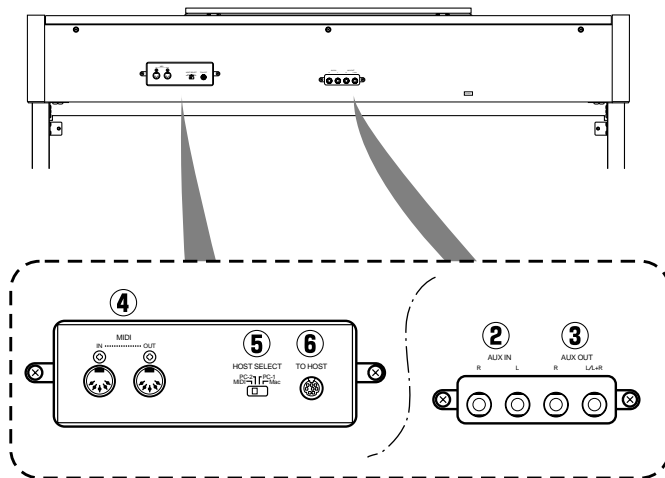
【PHONES】端子

ヘッドフォンを【PHONES】端子(標準ステレオフォン端子)に接続して使います。

ヘッドフォンを接続するとJ-3000のスピーカーからは音が出ません。

【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

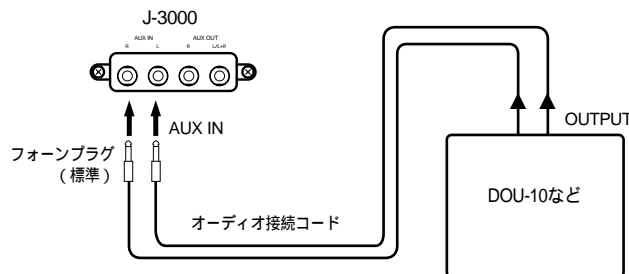




AUX IN【R】L】端子

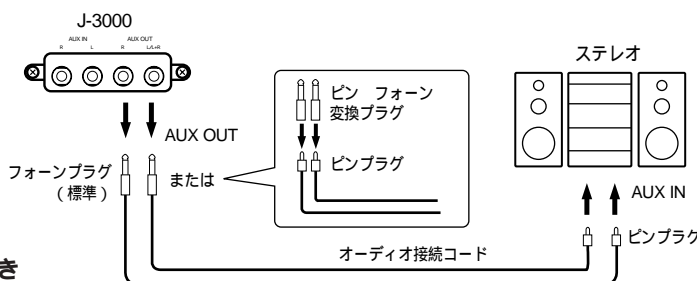
AUX OUT【R】L/L+R】端子

- **AUX IN【R】L】端子**
ディスクオーケストラユニット DOU-10などの外部機器の音をJ-3000本体のスピーカーで鳴らすことができます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。



- **AUX OUT【R】L/L+R】端子**

J-3000をステレオなどに接続して、より大きな音を出したり、演奏を録音したりできます。オーディオ接続コードを使って図のように接続します。ステレオに接続したときは、J-3000の【MASTER VOLUME】は中程の位置にして、ステレオ側で音量を調節してください。



MIDI【IN】OUT】端子

MIDI接続専用のケーブルを使って外部MIDI機器と接続します。MIDI端子を使う場合は下記HOST SELECTスイッチを「MIDI」に設定してください。MIDIについての基礎的な解説を「MIDIについて (P39)」に掲載していますのでご参照ください。

HOST SELECTスイッチと【TO HOST】端子

【TO HOST】端子は...

パーソナルコンピューターに直接接続する端子です。

HOST SELECTスイッチは...

MIDI機器やパーソナルコンピューターを接続する場合に機器やパーソナルコンピューターの種類に応じて切り換えるスイッチです。

詳しくは次項「パーソナルコンピューターとの接続」をご覧ください。

AUX OUT から出力した音を、AUX IN に戻さないでください。(AUX OUT から外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びJ-3000のAUX IN に接続しないでください。)
J-3000のAUX IN から入力された音はそのままJ-3000のAUX OUT から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

オーディオ接続コード及び変換プラグは抵抗のないものをお使いください。

AUX IN からの入力音にはJ-3000本体の【MASTER VOLUME】や【REVERB】の設定は効きません。

■ パーソナルコンピューターとの接続

パーソナルコンピューター用の音楽ソフトを、J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}またはMIDI^{ミディ}端子とパーソナルコンピューターをつないで楽しむことができます。

- ・ J-3000を音源として使う場合、J-3000にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

J-3000とコンピューターを接続する場合、2つの方法があります。

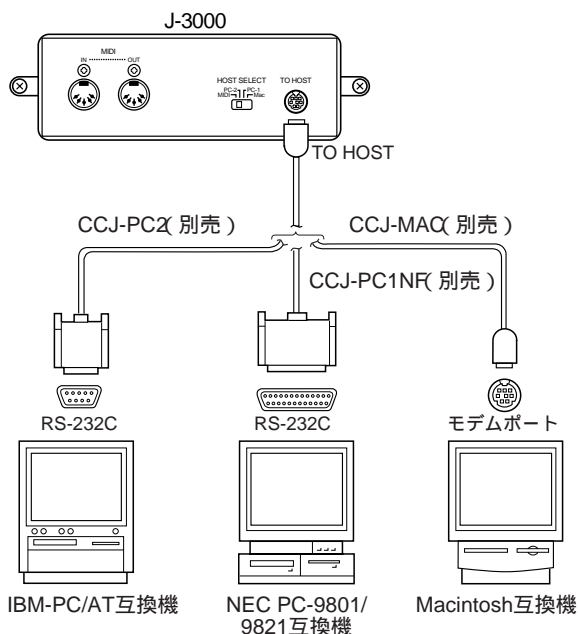
1. J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使った接続方法
2. J-3000のMIDI^{ミディ}端子を使った接続方法

1. J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使った接続方法

コンピューターのシリアルポートRS-232C端子やRS-422端子とJ-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を接続します。この方法では、J-3000をMIDI^{ミディ}インターフェース機器として使用できるため、専用のMIDIインターフェース機器は不要です。

接続方法

コンピューターのシリアルポートRS-232C端子やRS-422端子を、専用のシリアルケーブルで、J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子に接続します。



Windows 3.1 / Windows 95をご使用のお客様へ
コンピューターのシリアルポートとJ-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバー（YAMAHA CBX-T3 Serial Driver [Windows 3.1対応] または YAMAHA CBX Driver [Windows 95対応]）をコンピューターにインストールする必要があります。
MIDIドライバーについては、P53の「ポータブル楽器インフォメーションセンター」にお問い合わせください。
Windows 95対応のドライバーは、インターネットのヤマハホームページ（XGライブラリー <http://www.yamaha.co.jp/xg/L/tools/tooltop.html>）から、ダウンロードして直接入手することもできます。

接続するシリアルケーブルの種類

接続するコンピューターの種類に合わせて、下記のシリアルケーブルを使用してください。

- ・ Macintosh互換機：YAMAHA CCJ-Mac、または同等品
- ・ NEC PC-9801/9821互換機：
YAMAHA CCJ-PC1NF、または同等品
- ・ IBM-PC/AT互換機：YAMAHA CCJ-PC2、または同等品
- ・ パーソナルコンピューターによっては上記にあてはまらない場合もありますので、各シリアルケーブルの内部配線図（P37）とパーソナルコンピューターの端子形状によりご判断ください。

J-3000リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

接続するパーソナルコンピューターの種類によって、J-3000リアパネルのHOST SELECTスイッチを切り換えます。

- ・ Macintosh互換機：
【Mac】（ボーレート=31,250bps、1MHzのクロックを使用）
- ・ NEC PC-9801/9821互換機：
【PC-1】（ボーレート=31,250bps）
- ・ IBM-PC/AT互換機：
【PC-2】（ボーレート=38,400bps）

ノット J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使用する場合は、最初に、J-3000とコンピューターの電源を切った状態でケーブルを接続し、その後コンピューター J-3000の順番で、電源を入れてください。

ノット J-3000の【TO HOST】^{トウーホスト}端子を使用しない場合は、必ず【TO HOST】^{トウーホスト}端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、J-3000が正常に動作しないことがあります。

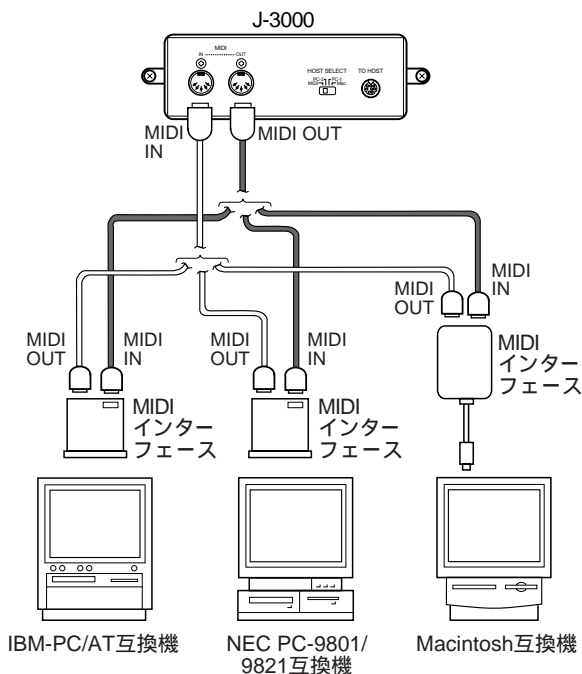
ノット 使用するソフトウェアの種類によって、上記の設定では動作しないものがあります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書をよく読んで、適合するボーレートの位置にHOST SELECTスイッチを設定してください。

ノット HOST SELECTスイッチを【PC-2】^{マックintosh}【PC-1】^{Macintosh}【Mac】^{Macintosh}に設定しているときは、【TO HOST】^{トウーホスト}端子が使えますが、MIDI^{ミディ}端子（【IN】^{イン}【OUT】^{アウト}【THRU】^{スルー}共）は使えません。（MIDIデータを送受信しません。）
逆に、HOST SELECTスイッチを【MIDI】^{ミディ}に設定しているときは、MIDI^{ミディ}端子（【IN】^{イン}【OUT】^{アウト}【THRU】^{スルー}共）が使えますが、【TO HOST】^{トウーホスト}端子は使えません。（データを送受信しません。）

2. J-3000のMIDI端子を使った接続方法

接続方法

MIDIインターフェース機器を通じてJ-3000のMIDI端子に接続します。専用のMIDIケーブルを使います。



J-3000リアパネルのHOST SELECTスイッチの設定

J-3000リアパネルのHOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定します。

【ノート】 HOST SELECTスイッチを【MIDI】に設定しているときは、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)が使えますが、【TO HOST】端子は使えません。(データを送受信しません。)
逆に、HOST SELECTスイッチを【PC-2】【PC-1】【Mac】に設定しているときは、【TO HOST】端子が使えますが、MIDI端子(【IN】【OUT】【THRU】共)は使えません。(MIDIデータを送受信しません。)

シリアルケーブルの内部配線図

Macintosh互換機用

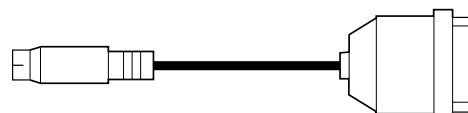
システムベリファラル 8ケーブル(YAMAHA CCJ-MACまたは同等品)



8-PIN	1	○	○	2 (HSK i)	8-PIN
ミニDIN	2	○	○	1 (HSK O)	ミニDIN
	3	○	○	5 (RxD-)	
	4	○	○	4 (GND)	
	5	○	○	3 (TxD-)	
	6	○	○	8 (RxD+)	
	7	○	○	7 (GP-)	
	8	○	○	6 (TxD+)	

NEC PC-9801/9821互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 25ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC1NFまたは同等品)



8-PIN	1	○	○	5 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2	○	○	4 (RTS)	25ピン
	3	○	○	3 (RxD)	
	4	○	○	7 (GND)	
	8	○	○	○	
	5	○	○	2 (TxD)	

IBM-PC/AT互換機用

8ピンミニDIN D-SUB 9ピンケーブル(YAMAHA CCJ-PC2または同等品)



8-PIN	1	○	○	8 (CTS)	D-SUB
ミニDIN	2	○	○	7 (RTS)	9ピン
	3	○	○	2 (RxD)	
	4	○	○	5 (GND)	
	8	○	○	○	
	5	○	○	3 (TxD)	

プラグのピン番号

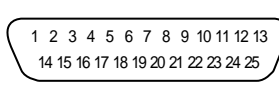
各プラグのピン番号は下記のとおりです。

オモテから見たピン番号

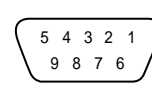
MINI DIN
8-PIN



D-SUB
25-PIN



D-SUB
9-PIN



パーソナルコンピュータによっては上記にあてはまらない場合もありますので上記各シリアルケーブルの内部配線図とパーソナルコンピュータの端子形状によりご判断ください。

Macintoshはアップルコンピュータ株式会社の商標です。

PC-9801/9821は日本電気株式会社の商標です。

IBM-PC/ATは、国際ナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名及び商品名等は、各社の登録商標及び商標です。

故障かな? と思ったら

現象	考えられる原因	解決法
J-3000の電源が入らない。	電源プラグがコンセントに差し込まれていません(本体側と家庭側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P7)
電源(POWER)スイッチを押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	ご心配いりません。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	ボリューム(MASTER VOLUME)が下がっています。	ボリューム(MASTER VOLUME)を上げてください。(P7)
	ヘッドフォンが接続されています。	ヘッドフォンを抜いてください。(P7)
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P32)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください。(P50)
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。

ノート ディスプレイに **Scn** が表示された場合は、J-3000の内部に異常がありますので、お買い上げの楽器店か、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点までご連絡ください。

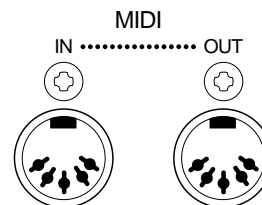
MIDIについて

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。

MIDI機器間でMIDIデータを送受信することにより、外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器から自機がコントロールされたりすることができます。

- MIDIでは、演奏データや命令をデジタルデータ(数値に置き換えたデータ)で送受信します。
- ただしMIDI機器でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。共通に扱えるデータや命令は、各機種での「MIDIインプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。J-3000のMIDIインプリメンテーションチャートはP46に掲載されています。

MIDI端子



ミディ イン
MIDI【 IN 】: MIDIデータを受信する端子です。
ミディ アウト
MIDI【 OUT 】: MIDIデータを送信する端子です。

MIDIケーブル

専用のMIDIケーブルをご用意ください。

- ファンクションのMIDI機能の諸設定(「F6 (P31 ~ 33)」)で各種のMIDI設定が行えます。
- MIDIについての詳しい知識は、各種の音楽雑誌や書籍で得ることができます。

音色のご紹介

PIANO (ピアノ)

豊かに広がるグランドピアノの音。
クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。

E. PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)

タッチにより色々な表情を見せる多彩な可能性を秘めた新しい音です。

E. PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)

シンセサイザー-DXのエレピの音。
弾いた瞬間の金属的な固い音が特徴的です。

E. PIANO 3 (エレクトリックピアノ3)

やわらかな音色のエレピの音。
強く弾くと芯のある音がします。

HARPSICHORD (ハープシコード)

バロック音楽などでよく使われる楽器「ハープシコード」の音。
「チェンバロ」ともいいます。

PIPE ORGAN 1 (パイプオルガン1)

重厚なフルパイプオルガンの音。

PIPE ORGAN 2 (パイプオルガン2)

賛美歌の伴奏などに使われるパイプオルガンの音。

デモ曲/ピアノ曲 曲名一覧表

デモ曲

音色名	曲名
PIANO	バラード第1番ト短調作品23/ F.F.Chopin
E. PIANO1	コンソレーション第3番/ F.Liszt
E. PIANO2	ヤマハオリジナル
E. PIANO3	ヤマハオリジナル
HARPSICHORD	フランス組曲第5番BWV816より「アルマンド」/ J.S.Bach
PIPE ORGAN1	8つの小さな前奏曲とフーガBWV553-560より「前奏曲第1番八長調」/ J.S.Bach
PIPE ORGAN2	賛美歌68番「父なる御神にみ栄えあれかし」

ピアノ曲

曲番号	曲名	参考楽譜
1.	エリーゼのために/ L.V.Beethoven	ヘンレ版 ベートーベンピアノ作品集
2.	人形の夢と目覚め/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
3.	花の歌/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
4.	トルコ行進曲/ W.A.Mozart	ベータース版 モーツァルトピアノソナタ集2
5.	小犬のワルツ/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
6.	トルコ行進曲/ L.V.Beethoven	全音楽譜出版社 ピアノ名曲選集 上巻
7.	紡ぎうた/ A.Ellmenreich	全音楽譜出版社 ピアノピース
8.	アルプスの夕映え/ T.Oesten	全音楽譜出版社 ピアノピース
9.	パウムクーヘン/ A.Yuyama	全音楽譜出版社 ピアノ曲集 お菓子の世界
10.	渚のアデーレヌ/ P.D.Senneville	ヤマハオリジナルアレンジ
11.	荒野のバラ/ G.Lange	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ランゲピアノアルバム
12.	貴婦人の乗馬/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
13.	メヌエット/ J.S.Bach	ヘンレ版 アンナ・マグダレーナ・バッハのためのクラヴィーア小曲集
14.	トルコ風ロンド/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版社 ピアノピース
15.	ソナチネ第1楽章/ W.Gillock	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ギロック子どものためのアルバム

曲番号	曲名	参考楽譜
16.	エチュード・アレグロ/ Y.Nakada	音楽之友社 子どものピアノ曲集
17.	アンプロンブチュ op.90-2/ F.P.Schubert	ヘンレ版 シューベルト即興曲集
18.	ワルツ op.64-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンワルツ集
19.	ノクターン op.9-2/ F.F.Chopin	ヘンレ版 ショパンノクターン集
20.	ソナタK.545 第1楽章/ W.A.Mozart	ベータース版 モーツァルトピアノソナタ集2
21.	アラベスク1/ C.A.Debussy	ヘンレ版 ドビュッシー2つのアラベスク
22.	乙女の祈り/ T.Badarzewska	全音楽譜出版社 ピアノピース
23.	春の歌/ J.L.F.Mendelssohn	ヘンレ版 メンデルスゾーン無言歌集
24.	すみれ/ L.Streabbog	ドレミ楽譜出版社 ストリーボックピアノ小品集
25.	ル・ローヌ/ K.Hattori	東京音楽書院 服部克久作品集
26.	アラベスク/ J.F.F.Burgmüller	全音楽譜出版社 ピアノライブラリー ブルグミュラー25の練習曲
27.	エンターティナー/ S.Joplin	ヤマハオリジナルアレンジ
28.	星に願いを/ L.Harline	ヤマハオリジナルアレンジ
29.	ミッキーマウスマーチ/ J.Dodd	ヤマハオリジナルアレンジ
30.	ホールニューワールド/ A.Menken	ヤマハオリジナルアレンジ

基本設定一覧表

基本設定(=電源^{オン}時の設定)を一覧にしました。

音色選択	PIANO
デュアル機能	OFF
リバーブの種類	ROOM
リバーブの深さ	10
エフェクトのON/OFF ^{オフ/オン}	音色ごと
エフェクトの深さ	音色ごと
トランスポーズ	0
タッチの種類	MEDIUM
タッチがFIXEDのときの音量	64
メロノーム	OFF
メロノーム音量	10
テンポ	120

ファンクションモードの設定

F1	チューニング	A3=440Hz
F2	音律	1(平均律)
F3.1	デュアル 音量バランス	音色の組み合わせごと
F3.2	デュアル 音程のずらし方の設定	音色の組み合わせごと
F3.3, F3.4	デュアル オクターブ設定	音色の組み合わせごと
F3.5, F3.6	デュアル エフェクトデプス	音色の組み合わせごと
F4.1	メロノームの拍子	0(無拍子)
F4.2	メロノーム音量	10
F5	左ペダル機能	1(ソフトペダル)
F6.1	MIDI送信チャンネル	1
F6.2	MIDI受信チャンネル	ALL
F6.3	ローカルコントロール	ON
F6.4	プログラムチェンジ送受信	ON
F6.5	コントロールチェンジ送受信	ON
F6.6	MIDIトランスポーズ量	0

MIDIデータフォーマット

1. ノートオン/オフ

[9nH] [kkH] [vvH]
 9nH = ノートオン/オフ・イベント(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.
 (送信: 09H~78H=A-2~C8)
 (受信: 00H~7FH=C-2~G8)*1
 vvH = ベロシティ
 (ノートオン=01H~7FH、ノートオフ=00H)

[8nH] [kkH] [vvH]
 8nH = ノートオフ(n=チャンネルNo.)
 kkH = ノートNo.(00H~7FH=C-2~G8)
 vvH = ベロシティ

*1 ただし音色によって発音可能範囲を超えた場合は、オクターブ単位で折り返して発音します。

2. コントロールチェンジ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロールチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ccH = コントロールNo.
 vvH = コントロール値

1) バンク選択

ccH パラメーター 値(vvH)
 00H バンク選択MSB 00H: ノーマル
 20H バンク選択LSB 00H~7FH
 バリエーション: オフ
 : オン

プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) メインボリューム(受信のみ)

ccH パラメーター 値(vvH)
 07H ボリューム 00H~7FH

3) エクスプレッション

ccH パラメーター 値(vvH)
 0BH エクスプレッション 00H~7FH

4) ダンパーペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 40H ダンパー 00H~7FH
 受信はハーフペダル対応です。

5) ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 42H ソステヌート 00H~3FH: オフ、40H~7FH: オン

6) ソフトペダル

ccH パラメーター 値(vvH)
 43H ソフトペダル 00H~3FH: オフ、40H~7FH: オン

7) アタックタイム

ccH パラメーター 値(vvH)
 49H アタックタイム 00H~7FH

8) エフェクト1デプス(リバーブ・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5BH エフェクト1デプス 00H~7FH

リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

9) エフェクト4デプス(バリエーション・エフェクト・センドレベル)

ccH パラメーター 値(vvH)
 5EH エフェクト4デプス 00H~7FH

3. モード・メッセージ

[BnH] [ccH] [vvH]
 BnH = コントロール・イベント(n=チャンネルNo.)
 ccH = モード・メッセージNo.
 vvH = モード・メッセージ値

1) オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 78H オール・サウンド・オフ 00H

該当チャンネルの発音中の音を、すべて消音します。ただし、ノートオンやホールドオンなどのチャンネルメッセージの状態は保持します。

2) リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値(vvH)
 79H リセット・オール・コントローラー 00H

以下のようにリセットされます。

コントローラー	設定値
エクスプレッション	127(最大)
ダンパーペダル	(オフ)
ソステヌート	(オフ)
ソフトペダル	(オフ)

3) オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値(vvH)
 7BH オール・ノート・オフ 00H

該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

4) オムニ・オフ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7CH オムニ・オフ 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

5) オムニ・オン(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7DH オムニ・オン 00H

オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行います。

6) モノ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7EH モノ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

7) ボリ(受信のみ)

ccH コントローラー 値(vvH)
 7FH ボリ 00H

オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行います。

補足

1. FUNCTIONでControl Change ON/OFFがOFFされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。
2. ローカル・オン/オフ、オムニ・オン/オフは送信しません。(オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。)
3. ボイス・バンク(MSB、LSB)受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファ値を用いて実際の音色を決めます。
4. 本機は常にマルチティンバー・モード、ボリ・モードであり、オムニ・オン/オムニ・オフ/モノ/ボリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

[CnH] [ppH]
 CnH = プログラムチェンジ(n=チャンネルNo.)
 ppH = プログラムチェンジNo.

ファンクションでプログラムチェンジ・オン/オフがオフされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。

各音色のプログラムチェンジNo.は下記の通りです。

音色	プログラムチェンジNo.
PIANO	00H
E. PIANO 1	58H
E. PIANO 2	05H
E. PIANO 3	04H
HARPSICHORD	06H
PIPE ORGAN 1	13H
PIPE ORGAN 2	10H

5. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

[FEH]

200msecごとに送信します。

一度FEHを受信した後、約400msec以上MIDIからの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

[F8H]

96分タイミングで送信します。

エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96分タイミングとして受信します。

3) スタート

[FAH]

リズム・スタート時に送信します。

受信するとソングがスタートします。

4) ストップ

[FCH]

リズム・ストップ時に送信します。

受信するとソングがストップします。

MIDI受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

6. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ヤマハMIDIフォーマット)

[F0H] [43H] [0nH] [7CH] [F7H]

F0H,43H,0nH,7CH : n=チャンネルNo.
00H,2EH : データ長
43H,4CH,20H,20H : 機種コード
43H,4CH,50H,27H,39H,36H : 機種コード
30H,30H : (バースト) x.y

[パネルデータ]

[チェックサム(1バイト)]=0-(43H+4CH+20+.....+データエンド)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

[パネルデータ詳細]

- (1) 音色
- (2) デュアル・オン/オフ
- (3) デュアル音色
- (4) デュアル・バランス
- (5) デュアル・デチューン
- (6) デュアル・ボイス1・オクターブ
- (7) デュアル・ボイス2・オクターブ
- (8) デュアル・ボイス1・エフェクト・デプス
- (9) デュアル・ボイス2・エフェクト・デプス
- (10) - - -
- (11) - - -
- (12) - - -
- (13) - - -
- (14) - - -
- (15) - - -
- (16) - - -
- (17) - - -
- (18) - - -
- (19) - - -
- (20) リバーブ・タイプ
- (21) リバーブ・デプス
- (22) エフェクト・タイプ1
- (23) エフェクト・タイプ2
- (24) エフェクト・デプス
- (25) - - -
- (26) パリエーション1・オン/オフ
- (27) パリエーション2・オン/オフ
- (28) タッチ・センシティビティ
- (29) ペロシティ
- (30) レフトペダル(ソフト/スタート)
- (31) - - -
- (32) テンポ 絶対値・下位バイト)
- (33) テンポ 絶対値・上位バイト)
- (34) - - -

パネルデータ送信要求は受信しません。

7. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(ユニバーサル・システム・エクスクルーシブ)

1) ユニバーサル・リアルタイム・メッセージ
[F0H] [7FH] [XnH] [04H] [01H] [IH] [mmH] [F7H]

MIDIマスターボリューム

全チャンネルの音量が一度に変化します。
MIDIマスター・ボリュームを受信したときは、MIDI
入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボ
リュームは変化しません。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
7FH : ID of target device
04H : サブID # (機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID # (マスターボリューム)
IH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7FH : ユニバーサル・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
04H : サブID # (機種コントロール・メッセージ)
01H : サブID # (マスターボリューム)
IH : ボリュームLSB
mmH : ボリュームMSB
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) ユニバーサル・ノン・リアルタイム・メッセージ(GM ON)
[F0H] [7EH] [XnH] [09H] [01H] [F7H]

ジェネラルMIDIモード・オン

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
7FH : ID of target device
09H : サブID # (ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID # (ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

または

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
7EH : ユニバーサル・ノン・リアルタイム
XnH : Xは無視、nは0~Fを受信
09H : サブID # (ジェネラルMIDIメッセージ)
01H : サブID # (ジェネラルMIDIオン)
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

オンを受信することにより、MIDIがリセットされ
て初期状態になります。このメッセージの実行に
は、約50msecかかるため、次のメッセージとの間隔
を注意してください。

8. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(XG規格)

1) XGネイティブ・パラメーター・チェンジ
[F0H] [43H] [1nH] [4CH] [hhH] [mmH]
[IH] [ddH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
1nH : 機種No.
(n=送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
IH : アドレスLow
ddH : データ
: :
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

2) バルクダンブ(受信のみ)

[F0H] [43H] [0nH] [4CH] [aaH] [bbH] [hhH]
[mmH] [IH] [ddH] [ccH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
43H : ヤマハ
0nH : 機種No.
(n=送信時は常に0、受信時は0~F)
4CH : XGモデルID
aaH : バイトカウント
bbH : バイト・カウント
hhH : アドレスHigh
mmH : アドレスMid
IH : アドレスLow
ddH : データ
: :
ccH : チェック・サム
F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

XGシステム・オンを受信すると、必要なパラメ
ーター、コントロール・チェンジ等をリセットし、初
期状態になります。このメッセージの実行には、約
50msecかかるため、次のメッセージとの間隔を注意
してください。
XGネイティブ・パラメーター・チェンジは、データ
サイズが2または4のパラメーターは、そのサイズ分
のデータを送信します。
XGバルクダンブのアドレスおよびバイトカウント
は、付表のMIDIパラメーター・チェンジ表(システ
ム)を参照してください。付表中トータルサイズで
区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、
そのシリーズの先頭アドレスのみバルクデータのアド
レスとして有効です。
多量のバルクデータを受信するとエラーする場合が
ありますので、トータルで512バイト以上になる場
合は512バイト以下に区切り、適当な時間間隔
(120msec以上)をあけて送信してください。

<付表1>

MIDIパラメーター・チェンジ表(システム)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
00 00 00	4	020C~05F4	マスター・チューン	-50~5[セント]	00 04 00 00
01				1stビット3~0 ビット15~12	400
02				2ndビット3~0 ビット11~8	
03				3rdビット3~0 ビット7~4	
				4thビット3~0 ビット3~0	
04	1	00~7F	マスター・ボリューム	0~127	7F
05	1				
06	1	34~4C	トランスポーズ	-12~+1[セミトーン]	40
7E	0		XGシステム・オン	00=XGシステム・オン	
7F	0		オールパラメーター・リセット	00=オン(受信のみ)	
トータルサイズ	07				

注)

020CH以下の値は-50セントになります。
05F4以上の値は+50セントになります。

28~33の値は-12~-1に折返ります。
4D~58の値は+1~+12に折返ります。

<付表2>

MIDIパラメーター・チェンジ表(エフェクト1)

リバーブ、コーラス、バリエーション・タイプのナンバーは、エフェクトMIDIマップを参照してください。

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
02 01 00	2	00~7F	リバーブ・タイプMSB	エフェクトMIDIマップを参照	01(=ホール1)
		00~7F	リバーブ・タイプLSB	00: ベーシック・タイプ	00
	0C	1	リバーブ・リターン	- dB...0dB...+6dB(0...64...127)	40
02 01 40	2	00~7F	バリエーション・タイプMSB	エフェクトMIDIマップ参照	00(エフェクトなし)
		00~7F	バリエーション・タイプLSB	00: ベーシック・タイプ	00

注意: ここでいうバリエーション・エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

<付表3>

MIDIパラメーター・チェンジ表(マルチパート)

アドレス(H)	サイズ(H)	データ(H)	パラメーター	記述	初期値(H)
08 nn 11	1	00~7F	ドライレベル	0~127	7F

<付表4>

エフェクトMIDIマップ(リバーブ)

MSB	LSB	00H	01H	02H	03H~
00H		エフェクトなし			
01H		ホール1	ホール2	ホール1	
02H		ルーム1			
03H		ステージ1			

<付表5>

エフェクトMIDIマップ(バリエーション)

MSB	LSB	00H	01H	02H	03H~
00H~	07H	エフェクトなし			
41H		コーラス1			

9. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(デジタルピアノMIDI準拠)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [nnH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : **】** デジタルピアノID
 3BH : **】**
 nnH : サブステータス
 コントロール nn
 内部クロック 02H
 外部クロック 03H
 バルクデータ 06H(06Hの後にバルクデータが続く)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

nn=02H,03Hの機種Dは、機種(3BH)の代わりに、ク
ラビノーバ共通D(01H)がきても受け付けます。

1) シーケンスデータ・バルクダンブ・フォーマット

F0H,43H,73H
 nnH : 機種ID(42H)
 06H : バルクID
 05H : シーケンスデータバルクダンブ・フォーマット
 0xH,0xH,0xH,0xH : データ長=xxxxバイト
 [バルクデータ] : low,high.....low,High
 [チェックサム(1バイト)]=0 - sum(バルクデータ)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

10. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(特殊操作子)

[F0H] [43H] [73H] [xxH] [11H] [0nH]
 [ccH] [vvH] [F7H]

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 73H : **】** デジタルピアノID
 3BH : **】**
 11H : SK特殊操作子
 0nH : コントロールMIDIチェンジ(n=特殊操作子チャンネルNo.)
 cc : コントロールNo.
 dd : 値
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

コントロール	0nH	ccH	dd
メトロノーム	常に00H	1BH	00H: オフ 01H: - 02H: 2/4 03H: 3/4 04H: 4/4 05H: 5/4 06H: 6/4 07H: ビートなし

チャンネルデチューン Ch: 00~0FH 43H(Chごとのデチューン
量を設定する)
00H~7FH

ボイス・リザーブ Ch: 00~0FH 45H 00H: リザーブ・オフ
7FH: オン*1

*1 リザーブ・オンの間に受信したボリューム、エク
スプレッションは次のキー・オン時から有効にな
ります。通常はリザーブ・オフです。

11. システム・エクスクルーシブ・メッセージ
(その他)

[F0H] [43H] [1nH] [27H] [30H] [00H]
 [00H] [mmH] [!!H] [ccH] [F7H]

マスター・チューニング(XGと後着優先)で、全チャ
ンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H : エクスクルーシブ・ステータス
 43H : ヤマハ
 1nH : n = 送信時は常に0、受信時は0~F
 27H : TG100の機種ID
 30H : サブID
 00H :
 00H :
 mmH : マスター・チューニングMSB
 !!H : マスター・チューニングLSB
 ccH : ccはなんでもよい。(7FH以下)
 F7H : エンド・オブ・エクスクルーシブ

YAMAHA [Digital Piano]
 Model J-3000 MIDI Implementation Chart

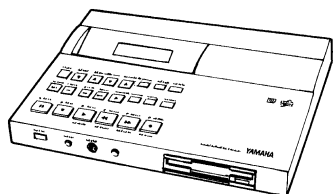
Date : 02/08, 1997
 Version : 1.0

Function	Transmitted	Recognized	Remarks
Basic Default	: 1	: 1	
Channel Changed	: 1-16	: 1-16	
Mode Default	: 3	: 1	*1 : Poly Mode only
Mode Messages	: X : *****	: X : X	
Note Number : True voice	: 9-120 : *****	: 0-127 : 21-108	
Velocity Note on	: 0 9nH, v=1-127	: 0 v=1-127	
Velocity Note off	: X 9nH, v=0	: X	
After Touch Key's	: X	: X	
After Touch Ch's	: X	: X	
Pitch Bender	: X	: X	
Control Change	: 0, 32 : 0 : 07 : X : 11 : X : 64 : 0 : 66 : 0 : 67 : 0 : 91 : 0 : 94 : 0 : 120 : X : 121 : X	: 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0 : 0	: Bank Select : Volume : Expression : Damper : Sostenuto : Soft Pedal : Reverb Depth : Effect Depth : All sounds off : Reset All : Controllers
Program Change : True #	: 0 : *****	: 0	
System Exclusive	: 0	: 0	
System Common : Song Pos	: X	: X	
System Common : Song Sel	: X	: X	
System Common : Tune	: X	: X	
System Real Time: Commands	: 0	: 0	
Aux : Local ON/OFF	: X	: X	
Aux : All Notes OFF	: 0	: 0 (123-127)	
Mes- : Active Sense	: 0	: 0	
sages: Reset	: X	: X	
Notes : *1 = Recieve Mode is always multi timbre and Poly mode.			
Mode 1	: OMNI ON, POLY	Mode 2	: OMNI ON, MONO
Mode 3	: OMNI OFF, POLY	Mode 4	: OMNI OFF, MONO
		0	: Yes
		X	: No

別売品のご紹介

ディスクオーケストラユニット DOU-10

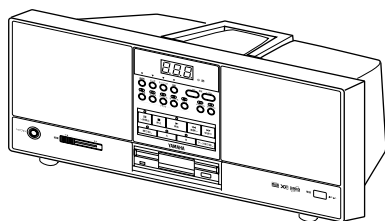
¥69,000(税別価格)



音源を備えた、16トラックのシーケンサー(録音/再生機器)です。J-3000と接続して、「ピアノアンサンブル(右記参照)」を再生したり、J-3000にない多彩な音色で演奏/録音したりするのに最適です。

ミュージック データ プレーヤー MDP10(伴奏くん)

¥58,000(税別価格)



スピーカー一体型の、ミュージックデータ再生専用モジュールです。「ピアノアンサンブル」や「ピアノソフト」をはじめとした幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。

主なディスクソフトのご紹介

ピアノ アンサンブル

ピアノとバックバンド/オーケストラのアンサンブルソフトです。鑑賞はもちろん、バックバンド/オーケストラパートをバックに、ピアノパートをご自身で演奏して楽しむこともできます。楽譜付きです。

ピアノソフト

内外の一流ピアニストの演奏が収録されたソフトです。クラシック、ジャズ、ポピュラーなどの多彩なジャンル、豊富な曲数の中から選べます。(一部J-3000ではご利用いただけないタイトルもあります。)

ミュージック Mumaについて

ミュージック Mumaとは、ヤマハ独自の音楽データ店頭販売システムです。店頭^{ミュージック}に設置されているMuma専用コンピューターで、音楽データをアルバム単位または自由選曲方式でお選びいただき、専用フロッピーディスクに収録してご購入いただけます。ピアノソフトの多くを含む豊富な音楽データが取り揃えられています。

- ・ 上記のソフトについて詳しくは、ソフトカタログをご覧ください。

仕様

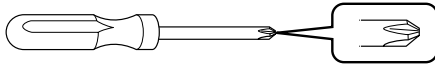
鍵盤	88鍵 (A-1 ~ C7)
音源	AWMステレオサンプリング
最大同時発音数	最大32音
音色	ピアノ、エレクトリックピアノ1、エレクトリックピアノ2、エレクトリックピアノ3、ハープシコード、パイプオルガン1、パイプオルガン2、各音色バリエーション
効果	リバーブ(ルーム/ホール1/ホール2/ステージ)、エフェクト
コントロール	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ、タッチ(ハード/ミディアム/ソフト/フィックス)、各種ファンクション
レコーダー	録音/再生、テンポ
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト
デモ	デモ曲7曲、ピアノ曲30曲
付属端子	AUX出力端子(R、L/L+R): 出力インピーダンス600Ω、 AUX入力端子(R、L): 入力インピーダンス10kΩ / 入力感度-10dBm、 ヘッドフォン端子×2、TO HOST端子、MIDI(IN、OUT)
メインアンプ	40W(20W×2)
スピーカー	14cm×2
定格電源	AC100V、50/60HZ
消費電力	35W
寸法[間口×奥行き×高さ] ()内は譜面立てを立てた場合	1393mm×525mm×863mm (1393mm×525mm×1038mm)
重量	64.0kg
装備	キーカバー、譜面立て
付属品	高低自在イス、ヘッドフォン、保証書、ご愛用者カード、取扱説明書(本書)

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

J-3000の組み立て方

- ・ 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ・ 組み立ては、必ず2人以上で行ってください。
- ・ ネジは指定のサイズ以外のは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因となる場合があります。
- ・ ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないよう増し締めを行って確実に固定してください。
- ・ 解体するときは、組み立てと逆の手順で行ってください。

1 + (プラス)のドライバーを用意します。



2 すべての部品を取り出します。部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VU49110

長いネジ(頭丸)×4
(6×35mm)



先のとがったネジ×4
(4×20mm)



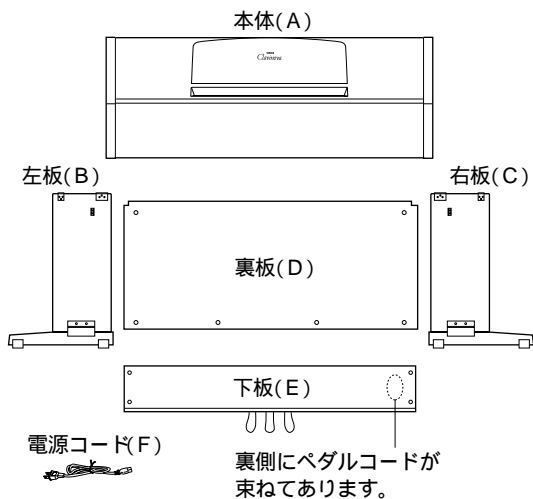
短いネジ(頭平)×4
(6×16mm)



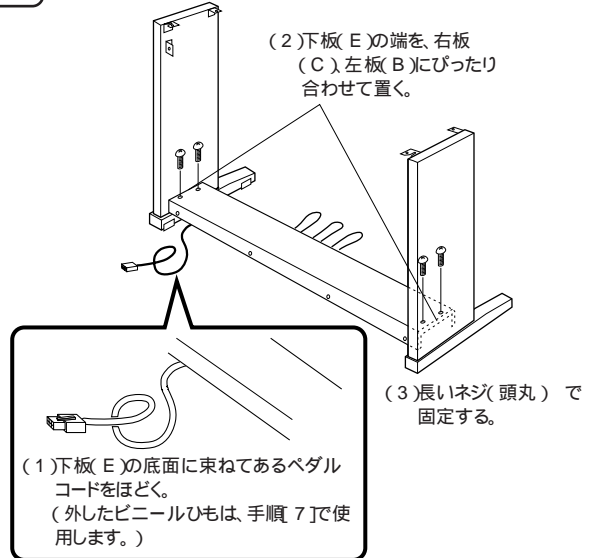
コードクランプ×2



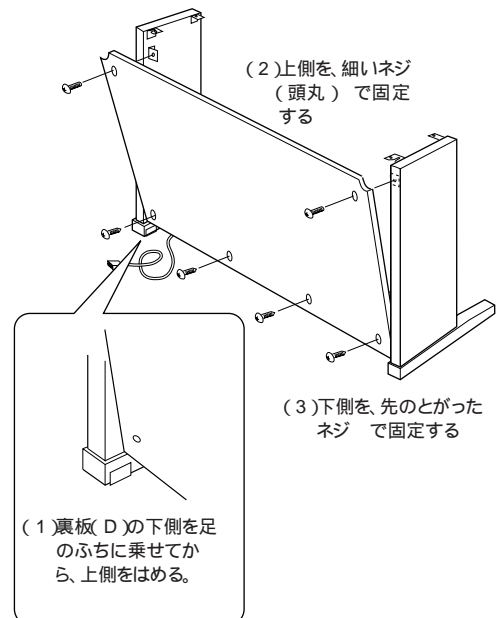
細いネジ(頭丸)×2
(4×16mm)



3 下板(E)を固定します。



4 裏板(D)を固定します。



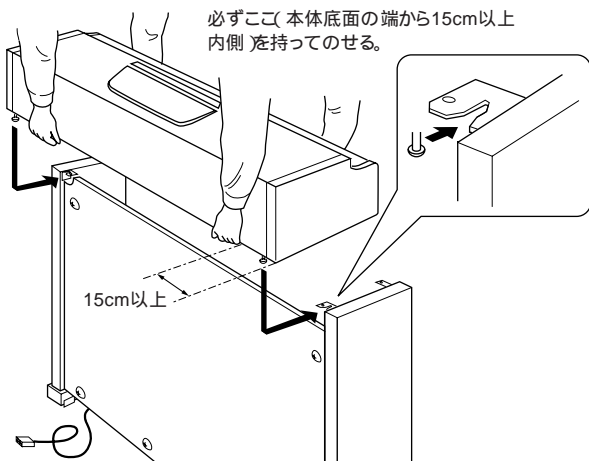
5 本体(A)をのせます。



指をはさんだり、本体を落としたりしないよう十分ご注意ください。



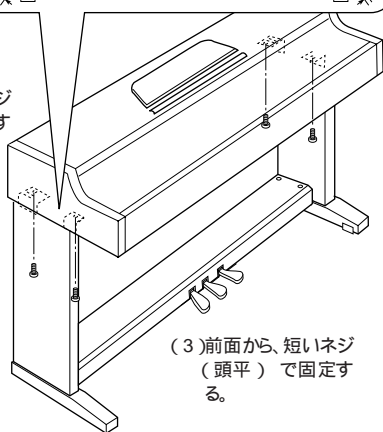
指定した位置以外を持たないでください。



6 本体(A)を固定します。

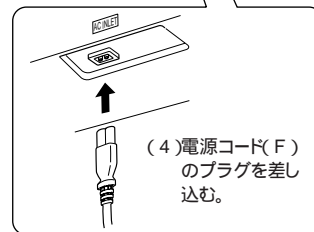
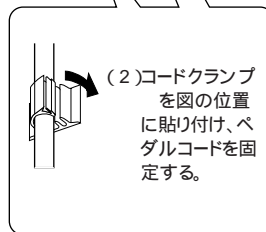
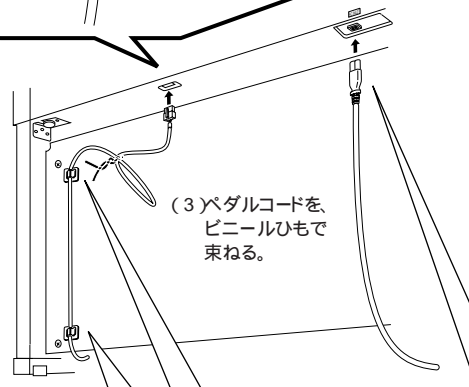
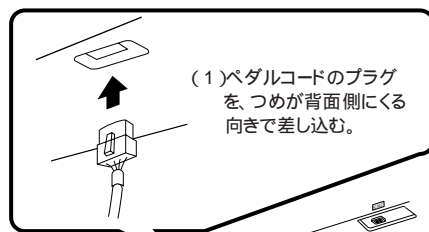
(1) 前面から見て、本体の張り出し部分が左右均等になるように調整する。

(2) 背面から、短いネジ(頭平)で固定する。

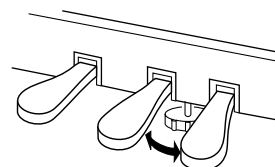


(3) 前面から、短いネジ(頭平)で固定する。

7 コードを接続します。



8 アジャスターを回します。



アジャスターを回して、床にぴったりつける。

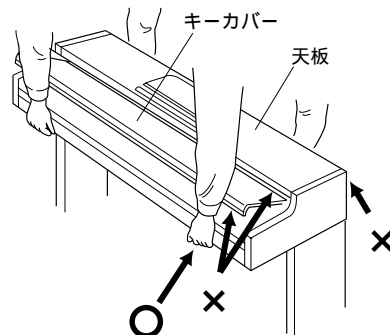
組み立て後、必ず以下のチェックをしてください。

- 部品が余っていませんか?
組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドア等がJ-3000にあたりませんか?
J-3000を移動してください。
- J-3000をゆすると、ガタガタしませんか?
ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、下板がガタガタしませんか?
アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか?
確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横振れする、グラつく等の症状がでたら、組み立て図にしたがって各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。



天板やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。



索引

- J-3000取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、P5「目次」をご覧ください。
- ボタンの名前から説明を捜したい場合は、P8～P9「各部の名前」をご利用ください。
- ファンクション項目の説明を捜したい場合は、P27「ファンクション一覧表」をご利用ください。

そのほかのキーワードから説明を捜したい場合に、この「索引」をご利用ください。

- 「*」印はそのページの「欄外注」に説明があることを示しています。

記号・ABC順

☞ の意味	4
▶ の意味	4
ALL(デモモード)	14
DOU-10	47
MDP-10	47
MIDI	35、39
Muma	47
md(デモモード)	14

あいうえお順

音律	29
音量調節	7
キーカバー	6
基本設定	11、42
ご愛用者カード	2
再生(曲の)	25～26
小項目(ファンクション)	27
ショートカット(F3.デュアルの諸設定)	31
ショートカット(F4.外ロノームの諸設定)	31
初期値(録音データ)とは---	24*
初期値(録音データ)の変更	24
セットアップデータとは---	32
ソステヌートペダル	17
ソフトペダル	17
ソングとは---	12*
大項目(ファンクション)	27
端子	34～35
ダンパーペダル	16
ディスクオーケストラ ユニット DOU-10	47
ディスプレイ	10
デモ曲	12
デモ曲/ピアノ曲モード	12～15
デュアルモード	20
電源	7
電源ランプ	7
パーソナルコンピューター	36～37
ピアノ30曲	14～15
ピアノ30曲の練習方法	15
ピアノアンサンブル	47
ピアノソフト	47
左のペダル	17
左ペダルスタート/ストップ	31
ファンクションとは---	11
ファンクションモード	27～33
深さ(エフェクト)	18
深さ(リバース)	17
付属品	2
部分練習(ピアノ30曲)	15
譜面立て	6
ヘッドフォン	7
保証書	2
まん中のペダル	17
右のペダル	16
モードとは---	12*
モードの相関	12*、22*、25*、28*
録音モード	22～24

メモ

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

保証書

本機には保証書がついています。保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げ日から本体は1年間、ヘッドフォンは6ヵ月です。

保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ポリウムコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

修理のご依頼

異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お申込み窓口)

北海道サービスセンター	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内 TEL. 011-512-6108
仙台サービスセンター	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F	TEL. 022-236-0249
首都圏サービスセンター	〒211-0025	川崎市中原区木月1184	TEL. 044-434-3100
東京サービスステーション*	〒108-0074	東京都港区高輪2-17-11 (*お持ち込み修理のみお取り扱い)	TEL. 03-5488-6625
浜松サービスセンター	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F	TEL. 052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16	ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL. 06-877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7	(株)ヤマハミュージック神戸高松店内 TEL. 0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14	TEL. 082-874-3787
九州サービスセンター	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2134
[本社 カスタマーサービス部]	〒435-0048	浜松市上西町911	ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL. 053-465-1158

デジタルピアノに関するお問い合わせ窓口

ポータブル楽器インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-1696
受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

北海道支店 第二営業課	〒064-0810	札幌市中央区南10条西1-1-50	ヤマハセンター内 TEL. 011-512-6113
仙台支店 第二営業課	〒980-0804	仙台市青葉区大町2-2-10	住友生命仙台青葉通りビル TEL. 022-222-6147
東京支店 第二営業部 企画課	〒108-0074	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-5476
関東支店 第二営業課	〒108-0074	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-1688
名古屋支店 第二営業課	〒460-8588	名古屋市中区錦1-18-28	TEL. 052-201-5199
大阪支店 第二営業部 第二営業課	〒542-0081	大阪市中央区南船場3-12-9	心斎橋プラザビル東館 TEL. 06-252-7491
広島支店 第二営業課	〒730-0031	広島市中区紙屋町1-1-18	TEL. 082-244-3749
九州支店 第二営業課	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL. 092-472-2130
電子楽器営業部 ポータブル楽器営業課	〒108-0074	東京都港区高輪2-17-11	TEL. 03-5488-6641

住所および電話番号は変更になる場合があります。

インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。
・ヤマハ株式会社のホームページ <http://www.yamaha.co.jp/>

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION

ヤマハ株式会社